

# 住宅火災・放火火災の実態

(令和2年中)

東京消防庁  
防災部防災安全課

# 目 次

<b>第1章 住宅火災の実態</b> .....	<b>- 1 -</b>
<b>1 住宅火災の概要</b> .....	<b>- 1 -</b>
(1) 住宅火災件数 .....	- 1 -
(2) 住宅火災による死者数 .....	- 2 -
(3) 住宅火災の焼損床面積 .....	- 3 -
<b>2 住宅火災の発生状況</b> .....	<b>- 4 -</b>
(1) 出火原因別 .....	- 4 -
(2) 着火物別 .....	- 4 -
(3) 出火箇所別 .....	- 5 -
(4) 初期消火別 .....	- 5 -
<b>3 住宅火災による死傷者の状況</b> .....	<b>- 7 -</b>
(1) 出火原因別 .....	- 7 -
(2) 着火物別 .....	- 10 -
(3) 出火箇所別 .....	- 13 -
(4) 月別・時間帯別 .....	- 14 -
(5) 年齢別・性別 .....	- 16 -
(6) 世帯構成別 .....	- 17 -
(7) 住宅火災時の行為別 .....	- 17 -
<b>4 住宅用火災警報器の概要</b> .....	<b>- 19 -</b>
(1) 住宅用火災警報器等の設置状況 .....	- 19 -
(2) 住警器等設置有無別の比較 .....	- 20 -
(3) 住警器の全部設置・一部設置の比較 .....	- 21 -
(4) 奏功事例の内訳 .....	- 22 -
<b>5 住宅火災から身の安全を守るためにできること</b> .....	<b>- 23 -</b>
<b>第2章 放火火災の実態</b> .....	<b>- 24 -</b>
<b>1 放火火災の概要</b> .....	<b>- 24 -</b>
<b>2 放火火災の発生状況</b> .....	<b>- 24 -</b>
(1) 月別発生状況 .....	- 24 -
(2) 曜日別発生状況 .....	- 25 -
(3) 時間帯別発生状況 .....	- 25 -
(4) 連続放火火災の発生状況 .....	- 26 -
(5) 主な火元建物用途別の発生状況 .....	- 27 -
(6) 主な放火場所と着火物 .....	- 28 -
<b>事例編</b> .....	<b>- 29 -</b>
<b>1 主な住宅火災の事例</b> .....	<b>- 29 -</b>

(1) たばこ.....	- 29 -
(2) こんろ.....	- 29 -
(3) ストープ.....	- 30 -
(4) その他の出火原因.....	- 30 -
<b>2 住宅用防災機器等の主な奏功事例.....</b>	<b>- 31 -</b>
(1) 住宅用火災警報器.....	- 31 -
(2) 消火器.....	- 32 -
(3) エアゾール式簡易消火具.....	- 32 -
<b>資料編.....</b>	<b>- 33 -</b>
1 区市町村別住宅火災状況.....	- 33 -
2 区市町村別住宅火災による死者状況.....	- 34 -
3 区市町村別放火火災状況.....	- 35 -

# 第1章 住宅火災の実態

(※火災による死者及び住宅火災による死者・負傷者は全て自損を除く。)

## 1 住宅火災の概要

### (1) 住宅火災件数

令和2年中の総火災件数は3,694件でした。このうち住宅火災（住宅《複合用途建物の住宅部分を含む。》及び共同住宅《寄宿舎を含む。》から出火した火災をいう。）は1,553件で、前年に比べ、10件増加しました（図1-1）。

また、建物から出火した火災の件数は2,598件、このうち住宅火災の割合は59.8%でした。住宅火災の内訳は、住宅564件（36.3%）、共同住宅989件（63.7%）となっています（図1-1、表1-1、表1-2、図1-2）。

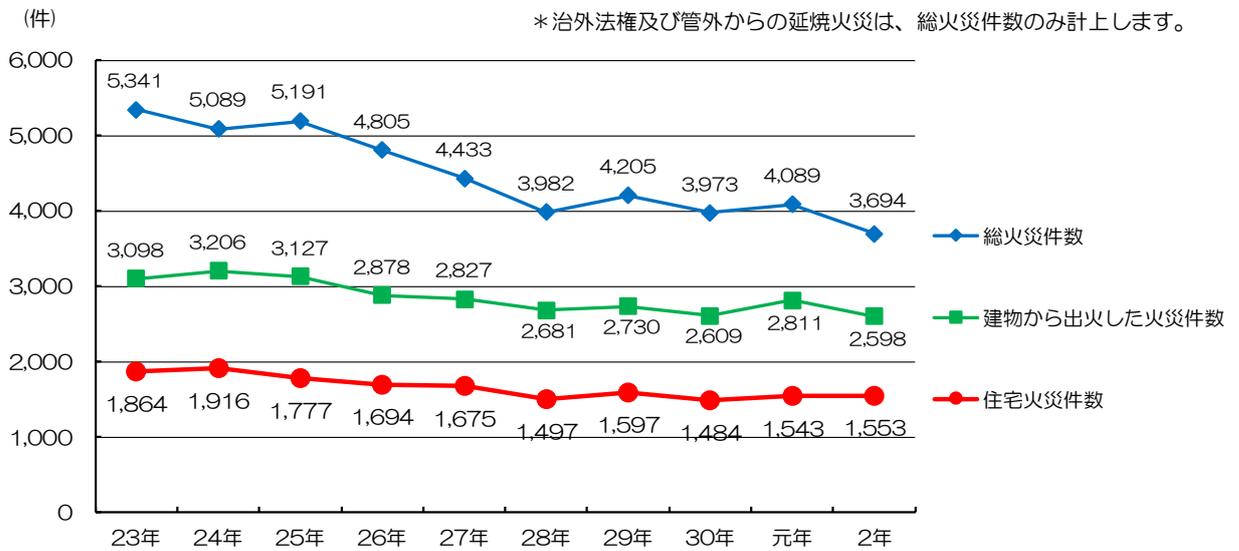


図1-1 過去10年間の住宅火災件数等の推移

表1-1 過去10年間の住宅火災件数等

年 別	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年
総火災件数	5,341	5,089	5,191	4,805	4,433	3,982	4,205	3,973	4,089	3,694
建物から出火した火災件数	3,098	3,206	3,127	2,878	2,827	2,681	2,730	2,609	2,811	2,598
住宅火災件数	1,864	1,916	1,777	1,694	1,675	1,497	1,597	1,484	1,543	1,553
建物から出火した火災に対する住宅火災の割合	60.2%	59.8%	56.8%	58.9%	59.3%	55.8%	58.5%	56.9%	54.9%	59.8%

\*「建物から出火した火災」とは火元の用途が建物の火災です。

表1-2 建物から出火した火災の内訳

建物から出火した火災 2,598件	
住宅火災件数	1,553件 (59.8%)
住宅	564件 (36.3%)
共同住宅	989件 (63.7%)
住宅火災以外の建物から出火した火災	1,045件 (40.2%)

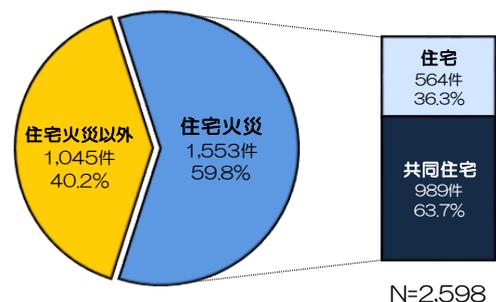


図1-2 建物から出火した火災の内訳

## (2) 住宅火災による死者数

令和2年中の火災による死者は76人で、前年に比べ15人減少しました。このうち自損を除く住宅火災による死者は71人で、前年に比べ12人減少しました。火災による死者のうち住宅火災による死者の占める割合は、93.4%となっています（表1-3、図1-3）。

住宅火災による死者71人のうち、65歳以上の高齢者（以下「高齢者」という。）は、53人と全体の74.6%を占め、高い割合となっています（図1-3、図1-4、表1-3）。

また、住宅火災による死者を用途別でみると、住宅で50人（70.4%）、共同住宅で21人（29.6%）の死者が発生しており、住宅の割合が高くなっています（表1-4、図1-5）。

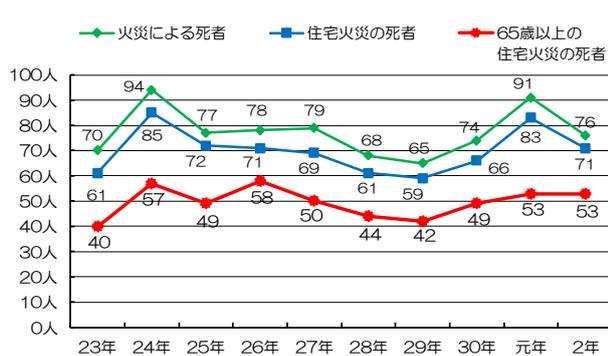


図1-3 過去10年間の住宅火災等による死者数の推移

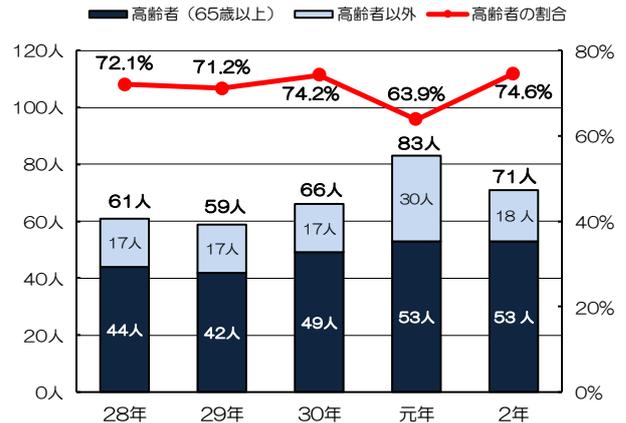


図1-4 過去5年間の住宅火災による死者数と高齢者の割合

表1-3 過去10年間の住宅火災による死者数

年 別	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年
火災による死者	70	94	77	78	79	68	65	74	91	76
住宅火災による死者	61	85	72	71	69	61	59	66	83	71
住宅火災による死者の火災による死者に対する割合	87.1%	90.4%	93.5%	91.0%	87.3%	89.7%	90.8%	89.2%	91.2%	93.4%
高齢者の住宅火災による死者	40	57	49	58	50	44	42	49	53	53
高齢者の住宅火災の死者割合	65.6%	67.1%	68.1%	81.7%	72.5%	72.1%	71.2%	74.2%	63.9%	74.6%

表1-4 住宅火災による死者の内訳

用途別	死者数 (高齢者数)	割合
住宅	50 (37)	70.4%
共同住宅	21 (16)	29.6%
合計	71 (53)	100%

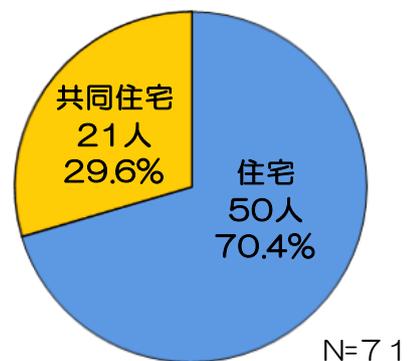


図1-5 住宅用途別死者の内訳

高齢者と高齢者以外の人口 10 万人あたりの住宅火災による死者発生数を比較すると、65 歳未満の死者は 0.17 人発生しているのに対し、65 歳以上 75 歳未満の死者は 0.95 人と 5.6 倍に増加し、さらに 75 歳以上の死者は 2.40 人と 14.1 倍に増加しています（表 1-5、図 1-6）。

表 1-5 高齢者死者数と人口

年齢別	死者	管内人口	人口 10 万人あたりの死者発生数
75 歳以上	39	1,623,962	2.40
75 歳未満 65 歳以上	14	1,469,658	0.95
65 歳未満	18	10,624,426	0.17

※人口：令和 2 年 1 月 1 日現在

（「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」東京都より）

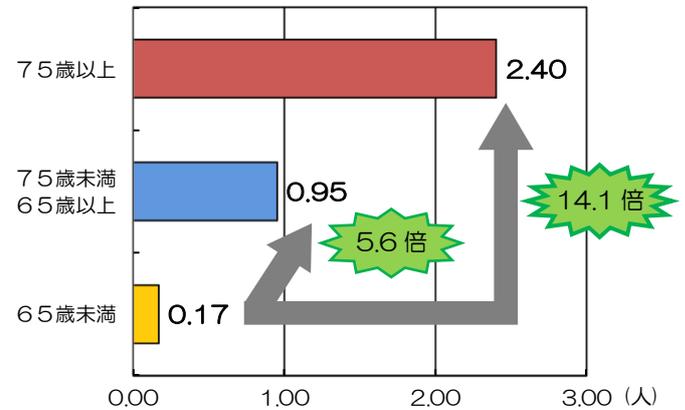


図 1-6 年齢別人口 10 万人あたりの住宅火災による死者発生数

### (3) 住宅火災の焼損床面積

令和 2 年中の住宅火災の焼損床面積は 9,336 m<sup>2</sup>で、前年に比べ 3,138 m<sup>2</sup>減少しました。

また、住宅火災 1 件あたりの平均焼損床面積は 6.01 m<sup>2</sup>で、前年に比べ 2.07 m<sup>2</sup>減少しました（図 1-7）。

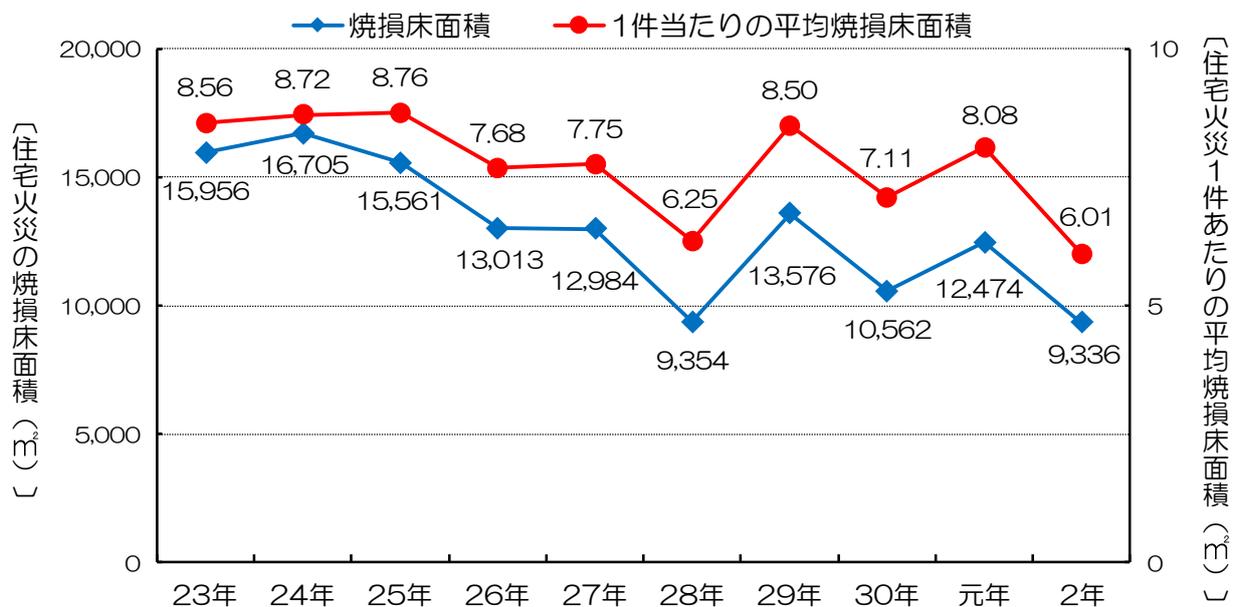


図 1-7 過去 10 年間の住宅火災の焼損床面積の推移

## 2 住宅火災の発生状況

### (1) 出火原因別

住宅火災 1,553 件の発生を出火原因別にみると、「こんろ」が 412 件（26.5%）と最も多く、次いで「たばこ」が 202 件（13.0%）、「ストーブ」が 81 件（5.2%）でした（表 1-6、図 1-8）。

### (2) 着火物別

着火物別にみると、「くず類」が 186 件（12.0%）と最も多く、次いで「布団類」が 143 件（9.2%）、「紙類」が 134 件（8.6%）でした（表 1-7、図 1-9）。

表 1-6 出火原因別住宅火災件数

出火原因	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
こんろ	412	134	278
たばこ	202	50	152
ストーブ	81	39	42
コード	33	17	16
ロウソク	29	15	14
火遊び	10	3	7
放火	144	36	108
その他	474	189	285
不明	168	81	87
合計	1,553	564	989

- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。  
 ※2 「放火」は、放火の疑いを含みます。  
 ※3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

表 1-7 着火物別住宅火災件数

着火物	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
くず類	186	47	139
布団等	143	59	84
紙類	134	36	98
衣類・繊維類	130	52	78
天ぷら油	128	39	89
ガス類	77	22	55
着衣	57	28	29
内装・建具・家具類	52	21	31
電線被覆	24	12	12
カーテン・じゅうたん等	14	3	11
ガソリン等	9	1	8
その他	461	169	292
不明	138	75	63
合計	1,553	564	989

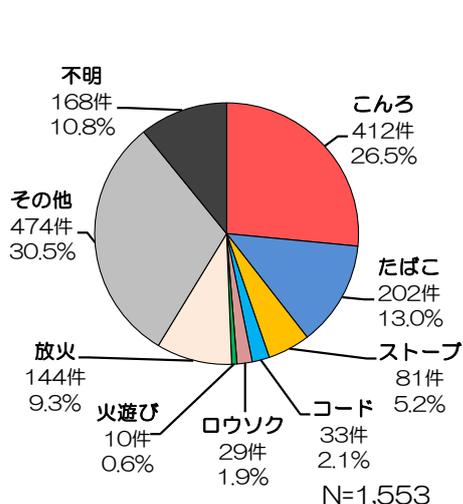


図 1-8 住宅火災の出火原因別の割合

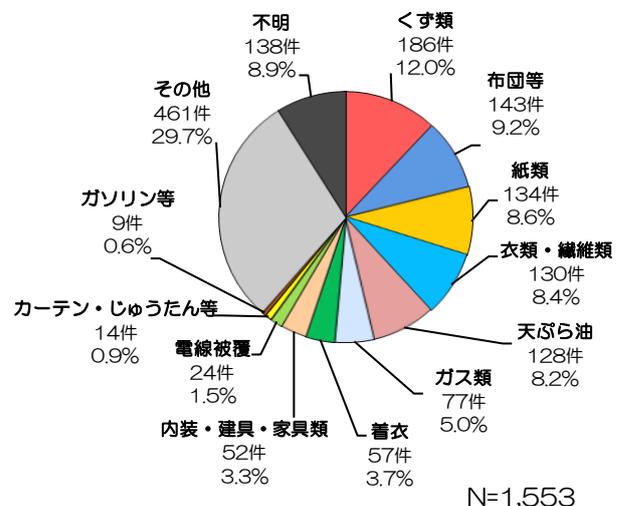


図 1-9 住宅火災の着火物別の割合

### (3) 出火箇所別

出火箇所別にみると、「台所・キッチン等」が635件（40.9%）と最も多く、次いで「居室等」が630件（40.6%）となっており、これらを合わせると全体の約8割（81.5%）を占めています（表1-8、図1-10）。

表1-8 出火箇所別住宅火災件数

出火箇所	住宅火災		
	合計	住宅	共同住宅
台所・キッチン等	635	215	420
居室等	630	263	367
バルコニー	90	14	76
廊下・階段等	62	15	47
便所・洗面所・浴室等	52	22	30
玄関・ホール	23	5	18
車庫・駐車場等	14	8	6
建物の外周部	7	1	6
その他	39	20	19
不明	1	1	0
合計	1,553	564	989

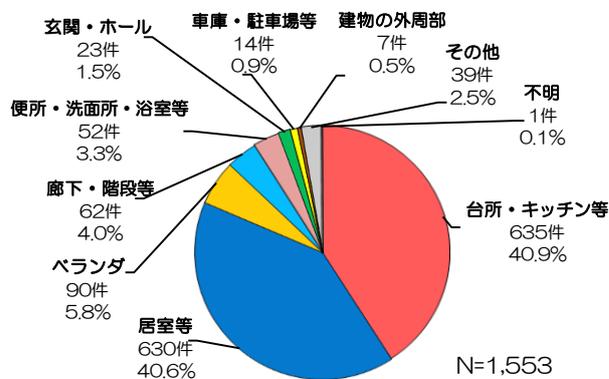


図1-10 住宅火災の出火箇所別の割合

### (4) 初期消火別

令和2年中の住宅火災における初期消火実施状況をみると、住宅火災1,553件のうち、「初期消火実施」が1,060件（68.3%）、「初期消火なし」が493件（31.7%）でした。

また、「初期消火実施」のうち「成功」・「失敗」別にみると、「成功」が834件、「失敗」が226件であり、「成功」した件数が約3.7倍多くなっています（図1-11）。初期消火「失敗」の理由には、「発見が遅れた」、「あせり消火できなかった」、「煙が充満していた」、「避難に重点をおいた」等がありました。

令和2年中の住宅火災における初期消火の実施状況を、火災100件当たりの死者数、火災1件当たりの損害額及び焼損床面積で比較すると、全ての項目で初期消火実施の方が被害は少なくなっています（図1-12-1～3）。

次に、初期消火実施を「成功」と「失敗」に分け、初期消火が「成功」、「失敗」及び「なし」の状況で、火災100件当たりの死者数、火災1件当たりの損害額及び焼損床面積で比較すると、全ての項目で初期消火が「成功」すると顕著に被害が少なくなっています（図1-12-4～6）。

最後に、初期消火が「成功」した火災と、初期消火が「失敗・なし」の火災について、火災100件当たりの死者数、火災1件当たりの損害額及び焼損床面積で比較すると、全ての項目で初期消火が「成功」した方が被害は少なくなっています（図1-12-7～9）。

以上の結果から、住宅火災による被害の軽減には確実な初期消火が重要であることが分かります。

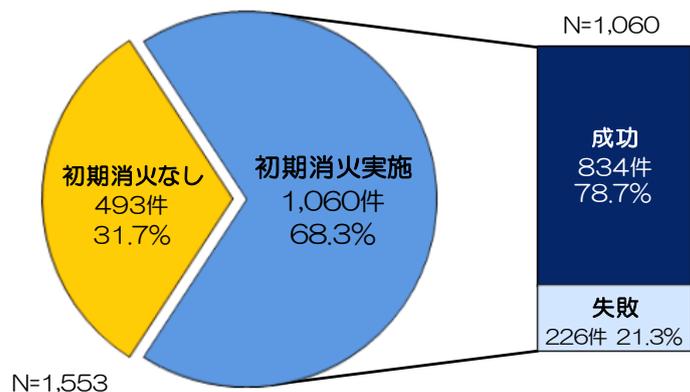


図 1-11 初期消火実施状況

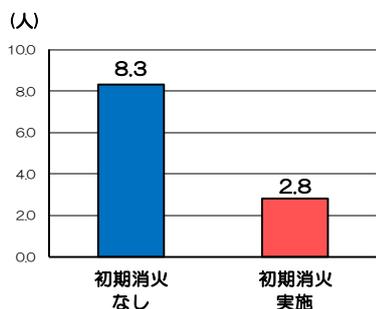


図 1-12-1 火災 100 件あたりの死者数

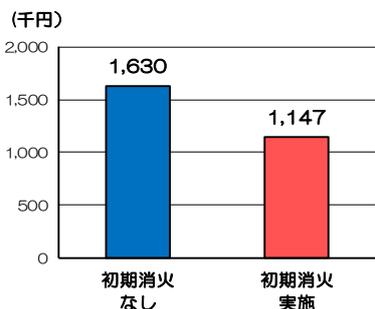


図 1-12-2 火災 1 件あたりの損害額

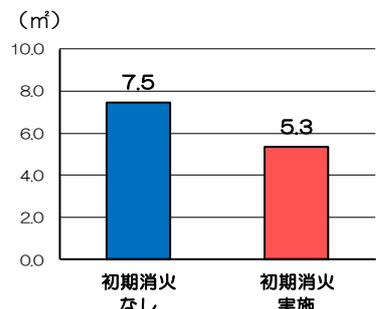


図 1-12-3 火災 1 件あたりの焼損床面積

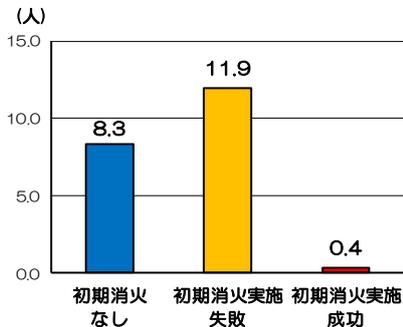


図 1-12-4 火災 100 件あたりの死者数

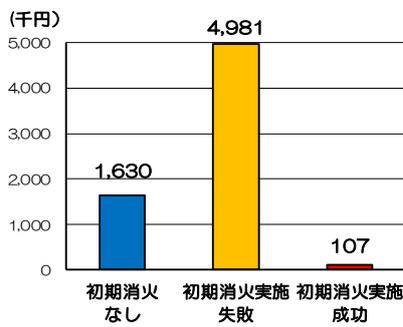


図 1-12-5 火災 1 件あたりの損害額

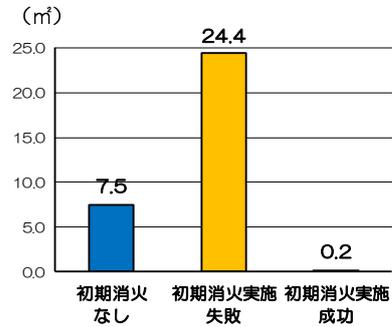


図 1-12-6 火災 1 件あたりの焼損床面積

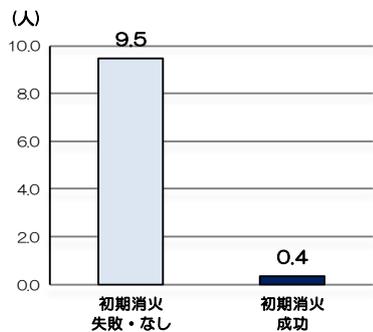


図 1-12-7 火災 100 件あたりの死者数



図 1-12-8 火災 1 件あたりの損害額

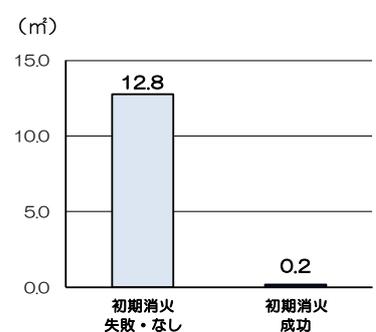


図 1-12-9 火災 1 件あたりの焼損床面積

図 1-12 令和 2 年中の初期消火実施別状況

### 3 住宅火災による死傷者の状況

#### (1) 出火原因別

##### ア 死者が発生した住宅火災の出火原因

住宅火災による死者71人を出火原因別(放火を除く。)にみると、「たばこ」が13人(18.3%)と最も多く、次いで「ストーブ」が9人(12.7%)、「こんろ」が4人(5.6%)でした(表1-9、図1-13)。例年は、「たばこ」、「ストーブ」、「こんろ」が死者発生を伴う住宅火災の出火原因における上位3位を占めており、令和2年もその傾向が見られました。

表 1-9 出火原因別死者数

出火原因	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
たばこ	13(8)	12	202	5.9%
ストーブ	9(6)	8	81	9.9%
こんろ	4(3)	4	412	1.0%
コード	3(3)	3	33	9.1%
放火	8(5)	7	144	4.9%
ロウソク	-(-)	-	29	0.0%
火遊び	-(-)	-	10	0.0%
その他	3(2)	3	513	0.6%
不明	31(26)	28	129	21.7%
合計	71(53)	65	1,553	4.2%

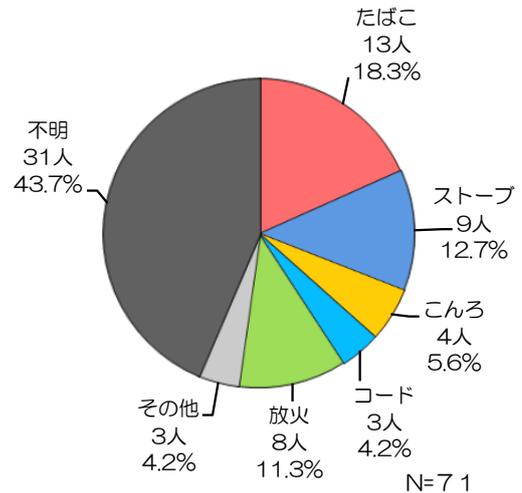


図 1-13 出火原因別死者の割合

- ※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。  
 ※2 「放火」は、放火の疑いを含みます。  
 ※3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

住宅火災発生の経過を上位3つの出火原因別にみると、それぞれ特徴がありました。

最も多くの死者が発生した出火原因である「たばこ」の経過をみると、死者13人のうち「火源の落下」が10人、「不始末」が3人でした。「火源の落下」とは、たばこの火源が布団や衣類等の可燃物に着火することを言います。「不始末」とは、火種の残った吸殻をごみ箱や灰皿に捨てることで可燃物に着火することを言います。

また、性別でみると、女性が3人であることにに対して男性が10人と、男性の死者が多くの割合を占めています(表1-10-1、図1-14-1)。

表 1-10-1 たばこによる火災の経過内訳

経過	死者数 (高齢者数)	男性	女性
火源の落下	10(7)	8	2
不始末	3(1)	2	1
合計	13(8)	10	3

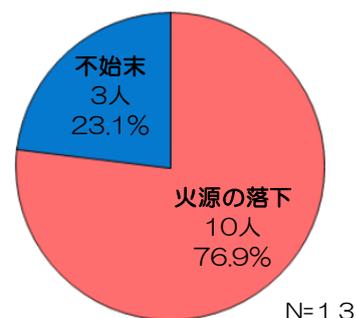


図 1-14-1 たばこによる住宅火災死者の経過

次に、「ストーブ」による住宅火災の経過をみると、死者9人のうち「可燃物の接触」が5人、「可燃物の落下」が3人、「不明」が1人でした。「可燃物の接触」とは、ストーブの周囲にある衣類等に着火することを言います。「可燃物の接触」の死者5人のうち、4人が電気ストーブを使用していました（表 1-10-2、図 1-14-2）。

表 1-10-2 ストーブによる火災の経過内訳

経過	死者数 (高齢者数)	男性	女性
可燃物の接触	5 (4)	4	1
可燃物の落下	3 (2)	0	3
不明	1 (0)	1	0
合計	9 (6)	5	4

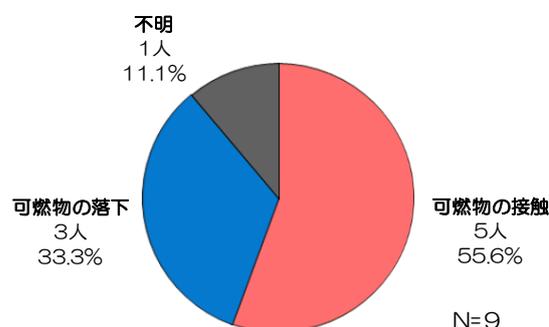


図 1-14-2 ストーブによる住宅火災死者の経過

続いて、「こんろ」による住宅火災の経過をみると、死者4人全員が「可燃物の接触」であり、全てが身に付けている衣服と火源が接触する着衣着火によるものでした（表 1-10-3、図 1-14-3）。

表 1-10-3 こんろによる火災の経過内訳

経過	死者数 (高齢者数)	男性	女性
可燃物の接触	4 (3)	3	1
合計	4 (3)	3	1



図 1-14-3 こんろによる住宅火災死者の経過

最後に、令和2年の住宅火災による死者のうち、3人が「コード」を出火原因として亡くなりました。住宅火災のうち、電気に関係する漏電や電線の短絡、スパーク、半断線、トラッキング等による発熱によって起こる火災を「電気コード火災等」と整理すると、令和2年の火災件数は298件で、昨年よりも10件増加しました。電気コード火災等による死者は5人発生しており、昨年から2人増加しました（図 1-15）。

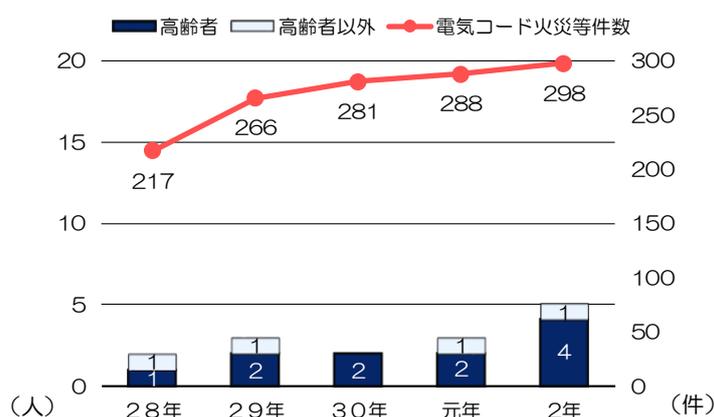


図 1-15 過去5年間の住宅火災における電気コード火災等の死者数及び火災件数の推移

死者が発生した「電気コード火災等」の主な出火原因について整理すると、テーブルタップ等の「コード」、「屋内線」、「電気こたつ」等で発生しました（図 1-16）。

経過別にみると、「電線が短絡する」、「金属の接触部が過熱する」、「トラッキング※」の順で多く発生しました（図 1-17）。

以上のことから、コードは、家具類等の下敷きや、折れ曲がった状態での使用による被覆の損傷、長年の使用による経年劣化が原因で、短絡や半断線が発生し火災に至る場合があります。

※トラッキングによる火災例：湿気を含むホコリ等が差し込みプラグの差し刃間に付着した状態で電圧が加わり、火花が発生して火災に至ります。

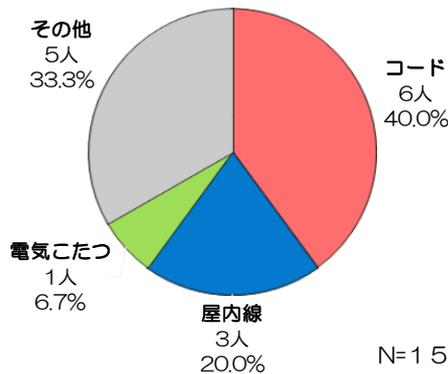


図 1-16 主な電気コード火災等による死者数  
(平成 28 年～令和 2 年)

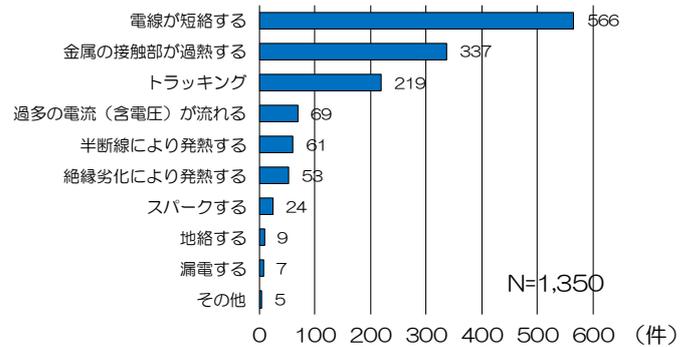


図 1-17 電気コード火災等における主な出火経過  
(平成 28 年～令和 2 年)

### イ 負傷者の発生した火災の出火原因

住宅火災による負傷者は 510 人で、出火原因別でみると、「こんろ」が 162 人（31.8%）と最も多く、次いで「たばこ」が 59 人（11.6%）、「ストーブ」が 45 人（8.8%）でした（図 1-18）。

また、住宅火災に伴う負傷者の発生率をみると、住宅火災全体 1,553 件中 377 件（24.3%）で負傷者が発生しました。特に「ロウソク」を出火原因とする住宅火災では 29 件中 14 件（48.3%）で負傷者が発生しており、負傷者 18 人のうち約 5 割の方が高齢者でした。（表 1-11）。

表 1-11 出火原因別負傷者数

出火原因	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
こんろ	162(60)	145	412	35.2%
たばこ	59(16)	38	202	18.8%
ストーブ	45(18)	28	81	34.6%
ロウソク	18(9)	14	29	48.3%
コード	16(5)	11	33	33.3%
放火	33(11)	22	144	15.3%
その他	130(24)	79	484	16.3%
不明	47(32)	40	168	23.8%
合計	510(175)	377	1,553	24.3%

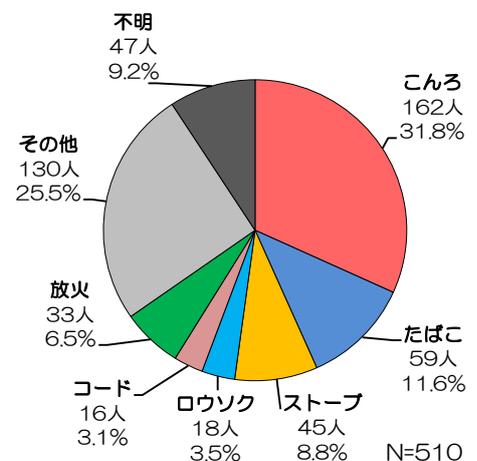
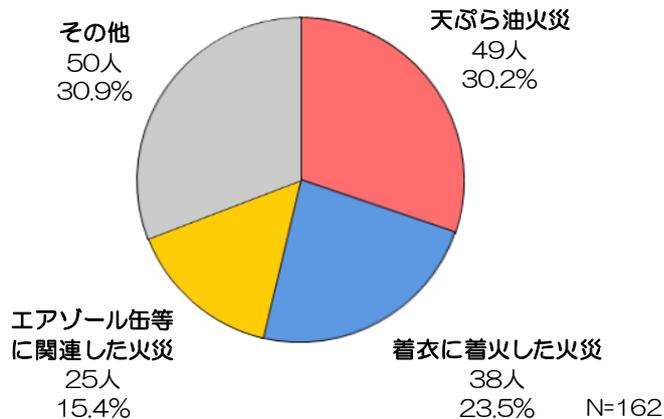


図 1-18 出火原因別負傷者の割合

※1 「こんろ」は、ガステーブル等及び電気こんろを合わせたものです。  
 2 「放火」は、放火の疑いを含みます。  
 3 「ストーブ」は、電気、ガス及び石油を合わせたものです。

負傷者が最も多く発生し、負傷者が生じた火災発生率も高い値を示している「こんろ」による負傷の経過をみると、「天ぷら油火災」が49人と最も多く、次いで「着衣に着火した火災」が38人、「エアゾール缶等に関連した火災」が25人となりました（図 1-19）。



※天ぷら油火災とは、調理に起因して発生（器具の誤操作等は除く。）し、動植物油から出火して火災（凝固剤関係を含む。）となったものです。

※エアゾール缶等とは、可燃性ガスを噴射剤とした整髪剤や消臭剤等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料として用いられるボンベのことで、ガス抜きをしていたエアゾール缶等の近くで火気を使用したことによる引火や暖房器具の近くにあるエアゾール缶等の加熱によって火災に至ります。

図 1-19 「こんろ」を出火原因とする住宅火災の負傷経過

(2) 着火物別

ア 死者が発生した住宅火災の着火物

着火物別の死者発生状況をみると、「布団類」が12人（16.9%）と最も多く、次いで「衣類・繊維類」が9人（12.7%）、「着衣」及び「くず類」が4人（5.6%）でした（表 1-12、図 1-20）。

表 1-12 着火物別死者数

着火物	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
布団類	12(8)	12	143	8.4%
衣類・繊維類	9(5)	8	130	6.2%
着衣	4(3)	4	57	7.0%
くず類	4(2)	3	186	1.6%
内装・建具・ 家具類	2(2)	2	52	3.8%
紙類	2(2)	2	134	1.5%
電線被覆	2(1)	2	24	8.3%
カーテン・ じゅうたん等	1(1)	1	14	7.1%
その他	1(1)	1	461	0.2%
不明	34(28)	30	138	21.7%
てんぷら油	-(-)	-	128	0.0%
ガス類	-(-)	-	77	0.0%
ガソリン等	-(-)	-	9	0.0%
<b>合計</b>	<b>71(53)</b>	<b>65</b>	<b>1,553</b>	<b>4.2%</b>

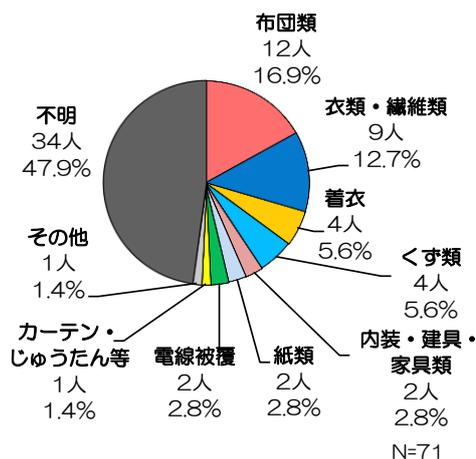


図 1-20 着火物別死者の割合

## イ 負傷者が発生した住宅火災の着火物

着火物別の負傷者の発生状況をみると、「布団類」が74人（14.5%）と最も多く、次いで「衣類・繊維類」が60人（11.8%）、「ガス類」が51人（10.0%）と続いています（表1-13、図1-21）。

表 1-13 着火物別負傷者数

着火物	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
布団類	74(22)	42	143	29.4%
衣類・繊維類	60(21)	40	130	30.8%
ガス類	51(19)	44	77	57.1%
てんぷら油	50(13)	40	128	31.3%
着衣	47(23)	46	57	80.7%
くず類	43(11)	29	186	15.6%
紙類	17(7)	16	134	11.9%
内装・建具・ 家具類	16(6)	13	52	25.0%
ガソリン等	10(1)	6	9	66.7%
カーテン・ じゅうたん等	6(3)	4	14	28.6%
電線被覆	1(0)	-	24	0%
その他	68(24)	58	461	12.6%
不明	67(25)	39	138	28.3%
合計	510(175)	377	1,553	24.3%

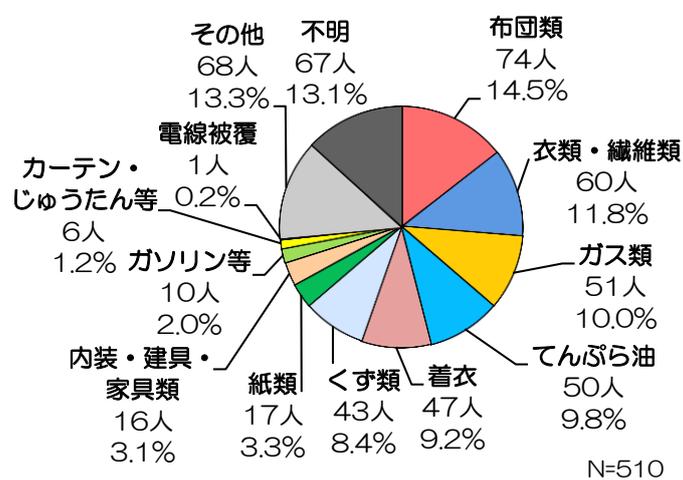


図 1-21 着火物別負傷者の割合

## ウ 着火物と出火原因

表 1-12 及び表 1-13 より、最も多くの死傷者が発生した住宅火災の着火物は「布団類」でした。「布団類」に着火した住宅火災件数は 143 件で、そのうち「たばこ」を出火原因とした火災が 54 件（37.8%）と最も多くなっています。「たばこ」を出火原因として「布団類」に着火した住宅火災 54 件において、19 人の死傷者が発生し、このうち死者が 6 人と最も多く、重症の負傷者が 4 人、中等症の負傷者が 4 人でした（図 1-22）。

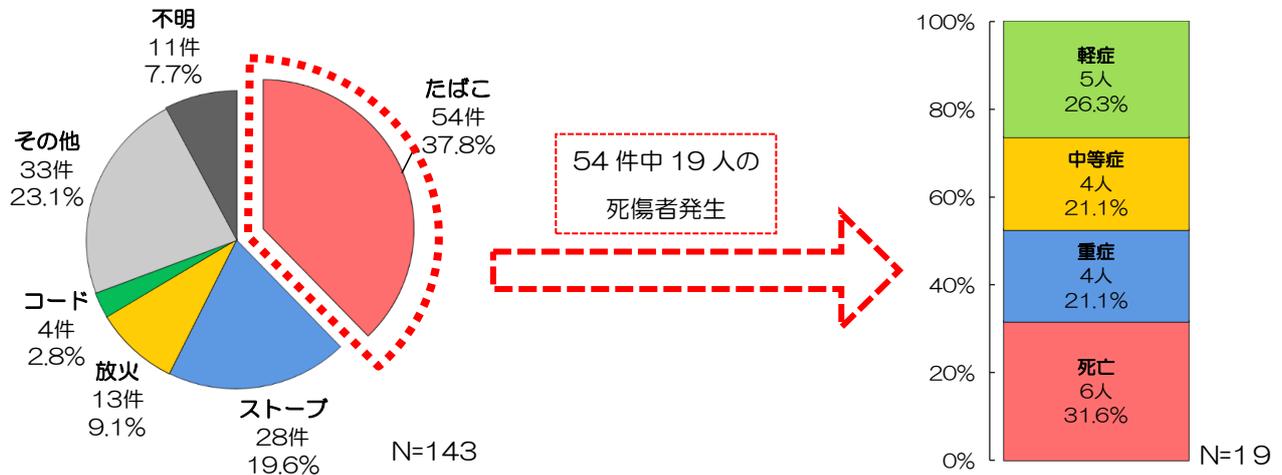


図 1-22 布団類への着火による住宅火災の出火原因別火災件数とたばこによる死傷者数の内訳

「たばこ」を出火原因として「布団類」に着火した住宅火災による死傷者 19 人を、死傷程度別の年齢構成でみると、全体として高齢者 6 人に対して高齢者以外は 13 人となっており、高齢者以外の死傷者の方が多くなっています。ただし、高齢者は約 8 割が重症以上となり、死傷の程度が重くなっています（図 1-23）。

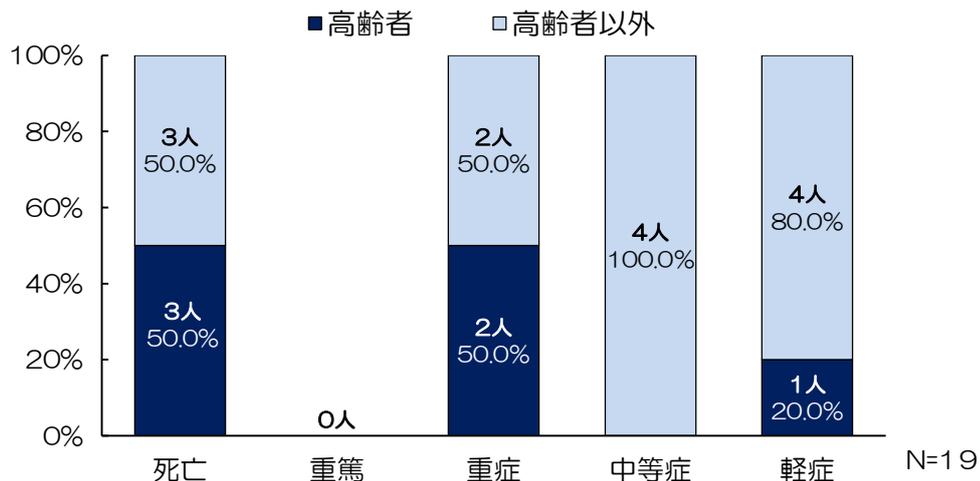


図 1-23 たばこを出火原因として布団類に着火した住宅火災における死傷者の年齢構成

### (3) 出火箇所別

#### ア 死者が発生した住宅火災の出火箇所

出火箇所別の死者発生状況を見ると、「居室等」が49人(69.0%)と最も多く、次いで「台所・キッチン等」が14人(19.7%)となっており、「居室等」と「台所・キッチン等」を合わせると8割以上を占めています(表1-14、図1-24)。

表 1-14 出火箇所別死者数

出火箇所	死者数 (高齢者数)	死者発生 火災件数	住宅 火災件数	死者が生じた 火災発生率
居室等	49(37)	46	630	7.3%
台所・ キッチン等	14(10)	12	635	1.9%
便所・洗面所 ・浴室等	4(3)	4	52	7.7%
廊下・階段等	1(0)	1	62	1.6%
その他	1(1)	1	39	2.6%
不明	2(2)	1	1	100.0%
ベランダ	-(-)	-	90	0.0%
玄関・ホール	-(-)	-	23	0.0%
車庫・ 駐車場等	-(-)	-	14	0.0%
建築物の 外周部	-(-)	-	7	0.0%
合計	71(53)	65	1,553	4.2%

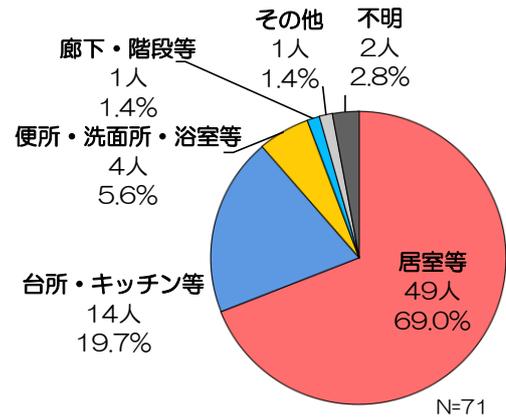


図 1-24 出火箇所別死者の割合

#### イ 負傷者が発生した住宅火災の出火箇所

出火箇所別の負傷者の発生状況を見ると、「居室等」が263人(51.6%)と最も多く、次いで「台所・キッチン等」が218人(42.7%)となっており、「居室等」と「台所・キッチン等」を合わせると約9割を占めています(表1-15、図1-25)。

表 1-15 出火箇所別負傷者数

出火箇所	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生 火災件数	住宅 火災件数	負傷者が生じた 火災発生率
居室等	263(87)	178	630	28.3%
台所・ キッチン等	218(76)	180	635	28.3%
便所・洗面所 ・浴室等	10(3)	7	52	13.5%
ベランダ	8(2)	6	90	6.7%
廊下・階段等	6(3)	2	62	3.2%
車庫・ 駐車場等	3(2)	2	14	14.3%
その他	2(2)	2	39	5.1%
玄関・ホール	-(-)	-	23	0.0%
建築物の 外周部	-(-)	-	7	0.0%
不明	-(-)	-	1	0.0%
合計	510(175)	377	1,553	24.3%

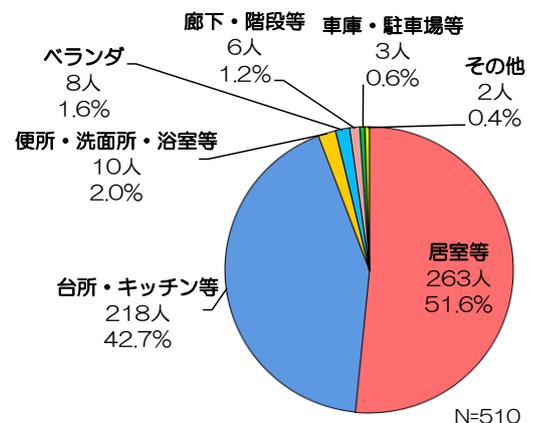


図 1-25 出火箇所別負傷者の割合

(4) 月別・時間帯別

ア 月別の住宅火災による死傷者発生状況

月別に死者発生状況をみると、2月、4月、1月の順で死者が多く発生しました。

月別に負傷者発生状況をみると、12月、1月、4月の順で負傷者が多く発生しました。

月別の住宅火災件数、死者数及び負傷者数は、いずれも火災多発期（12月1日から3月31日まで間）の期間中あるいはその前後の期間で多く発生していることが分かります（表1-16、図1-26）。

表 1-16 月別死傷者発生状況

出火月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
死者数	9	14	5	12	2	3	1	3	4	5	5	8	71
死者発生率※1	5.0%	7.0%	3.6%	8.1%	1.4%	3.0%	1.2%	2.5%	3.3%	4.4%	3.4%	4.5%	4.2%
高齢者死者数	7	12	5	8	2	2	0	3	3	5	1	5	53
負傷者数	64	35	42	56	39	37	36	32	29	45	30	65	510
負傷者発生率※2	24.6%	15.3%	22.1%	28.9%	23.2%	31.0%	32.9%	23.5%	26.1%	23.0%	20.7%	25.7%	24.3%
高齢者負傷者数	21	9	20	16	12	12	11	15	14	13	12	20	175
住宅火災件数	179	157	140	135	138	100	85	119	92	113	116	179	1,553
死者発生住宅火災件数	9	11	5	11	2	3	1	3	3	5	4	8	65
負傷者発生住宅火災件数	44	24	31	39	32	31	28	28	24	26	24	46	377

※1 死者発生率＝死者発生住宅火災件数／住宅火災件数

※2 負傷者発生率＝負傷者発生住宅火災件数／住宅火災件数

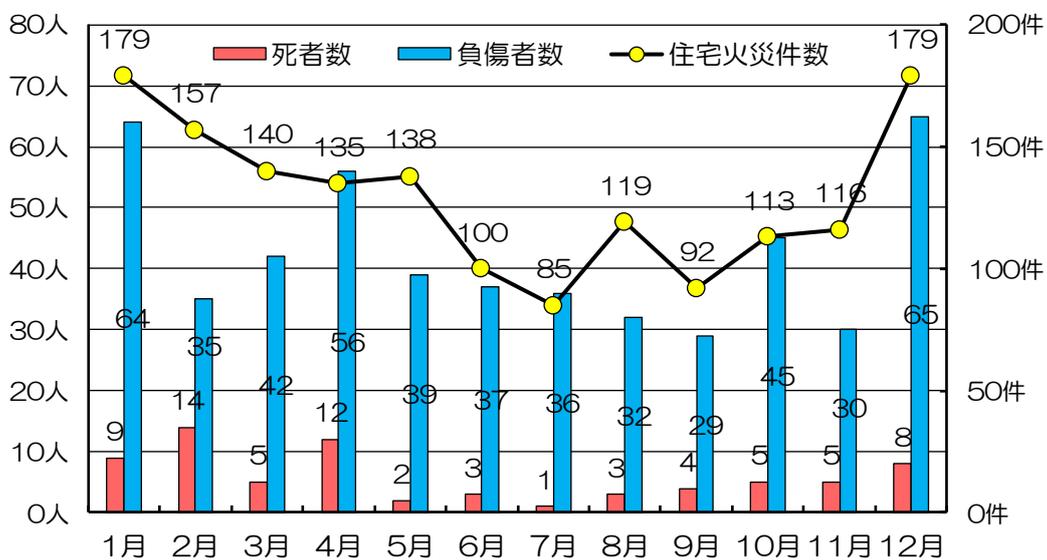


図 1-26 月別の住宅火災件数と死傷者数

## イ 時間帯別の住宅火災による死傷者発生状況

時間帯別（不明を除く。）に死者の発生状況を見ると、16時から17時台までの間を除き、時間帯に関係なく死者が発生しました。特に、0時から5時台まで及び22時から23時台までの時間帯は、死者発生率が高くなっています。

時間帯別（不明を除く。）に負傷者の発生状況を見ると、6時から7時台までの間と18時から19時台までの間の負傷者数が多く、火気の取り扱いが増加する時間帯に負傷者が発生しやすいと考えられます（表1-17、図1-27）。

表 1-17 時間帯別死傷者発生状況

出火時間帯	0 ～ 1	2 ～ 3	4 ～ 5	6 ～ 7	8 ～ 9	10 ～ 11	12 ～ 13	14 ～ 15	16 ～ 17	18 ～ 19	20 ～ 21	22 ～ 23	不明	合計
死者数	7	7	8	6	8	7	2	5	0	5	5	9	2	71
死者発生率※1	7.0%	7.8%	10.4%	5.1%	6.3%	4.7%	1.6%	3.6%	0.0%	2.2%	3.2%	7.4%	1.5%	4.2%
高齢者死者数	4	5	6	4	7	6	2	3	0	5	4	6	1	53
負傷者数	37	38	38	51	45	33	26	47	44	61	43	44	3	510
負傷者発生率※2	30.2%	33.8%	28.4%	37.8%	26.6%	20.9%	18.7%	27.0%	29.5%	28.1%	20.0%	23.0%	2.3%	24.3%
高齢者負傷者数	17	11	10	20	21	12	11	13	17	22	9	11	1	175
住宅火災件数	86	77	67	98	128	129	123	137	122	178	155	122	131	1553
死者発生住宅火災件数	6	6	7	5	8	6	2	5	0	4	5	9	2	65
負傷者発生住宅火災件数	26	26	19	37	34	27	23	37	36	50	31	28	3	377

※1 死者発生率＝死者発生住宅火災件数／住宅火災件数

※2 負傷者発生率＝負傷者発生住宅火災件数／住宅火災件数

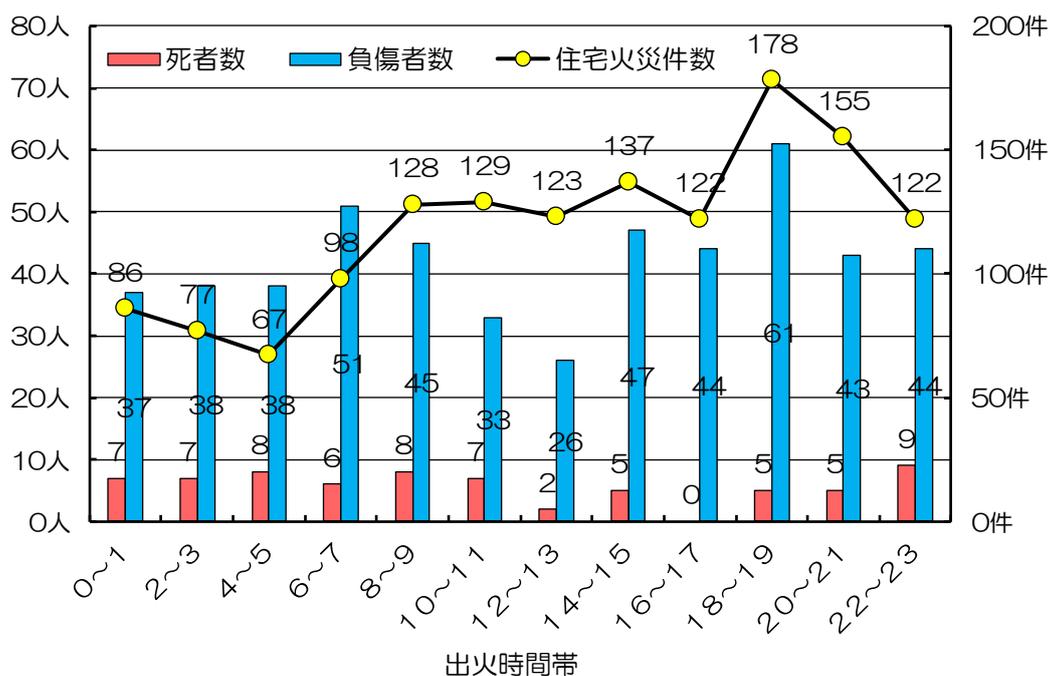


図 1-27 時間帯別の住宅火災件数と死傷者数

## (5) 年齢別・性別

### ア 年齢別の住宅火災による死者発生状況

年齢別に住宅火災による死者発生状況をみると、令和2年中の住宅火災による死者数は71人であり、このうち65歳以上の高齢者が53人（74.6%）と全体の7割以上を占めています。65歳以上75歳未満の前期高齢者が14人で、75歳以上の後期高齢者が39人であり、後期高齢者の方が多くなっています。

火災焼損程度別で死者発生状況をみると、全焼と部分焼の住宅火災でそれぞれ27人の方が亡くなりました。焼損面積等の被害が比較的少ない部分焼やぼやの火災においても死者が発生していることがわかります（表1-18、図1-28）。

### イ 性別の住宅火災による死者発生状況

性別で死者発生状況をみると、男性が43人（60.6%）、女性が28人（39.4%）であり、男性の割合が高くなっています。このうち、高齢者について、男性が31人（72.1%）、女性が22人（78.6%）であり、女性の方が高齢者の割合が高くなっています（表1-18、図1-28）。

表1-18 年齢別死者発生状況

年齢別	死者数	火災焼損程度				性別	
		全焼	半焼	部分焼	ぼや	男性	女性
乳幼児	0～5	0	-	-	-	-	-
未成年	6～9	0	-	-	-	-	-
	10～19	0	-	-	-	-	-
成人	20～29	1	1	0	0	1	0
	30～39	2	1	0	1	1	1
	40～49	3	0	1	2	2	1
	50～59	8	1	1	5	7	1
	60～64	4	1	1	2	1	3
前期高齢者	65～69	3	1	1	1	2	1
	70～74	11	5	4	2	9	2
後期高齢者	75～79	5	3	1	1	1	4
	80～89	27	10	3	11	17	10
	90～	7	4	1	2	2	5
合計	71	27	13	27	4	43	28

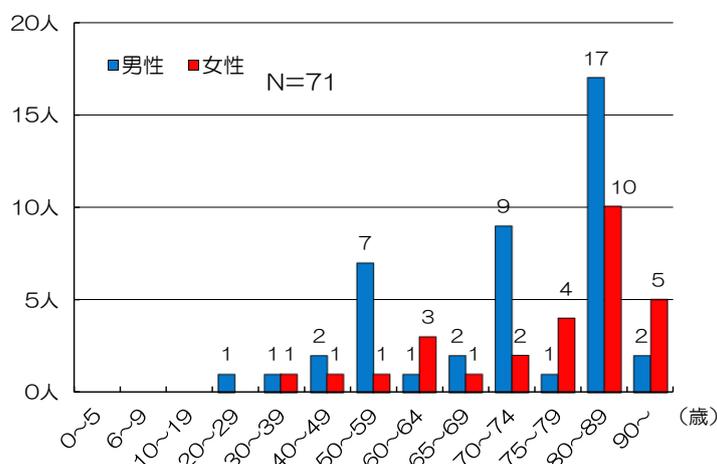


図1-28 年齢別・男女別死者発生状況

## (6) 世帯構成別

住宅火災が発生した世帯の構成を、「一人暮らし（高齢者を除く。）」、「高齢者を含む家族」、「高齢者夫婦のみ」及び「高齢者一人暮らし」に分けます。このうち、「高齢者一人暮らし」と「高齢者夫婦のみ」の世帯を合わせて「高齢者のみの世帯」と呼びます。

世帯構成別に住宅火災による死者発生状況を見ると、「高齢者の一人暮らし」世帯で最も多く、住宅火災全体のうち約5割が「高齢者のみの世帯」で死者が発生しました。直近5年間、「高齢者のみの世帯」での住宅火災による死者が約5割を占める傾向が続いています（図 1-29）。

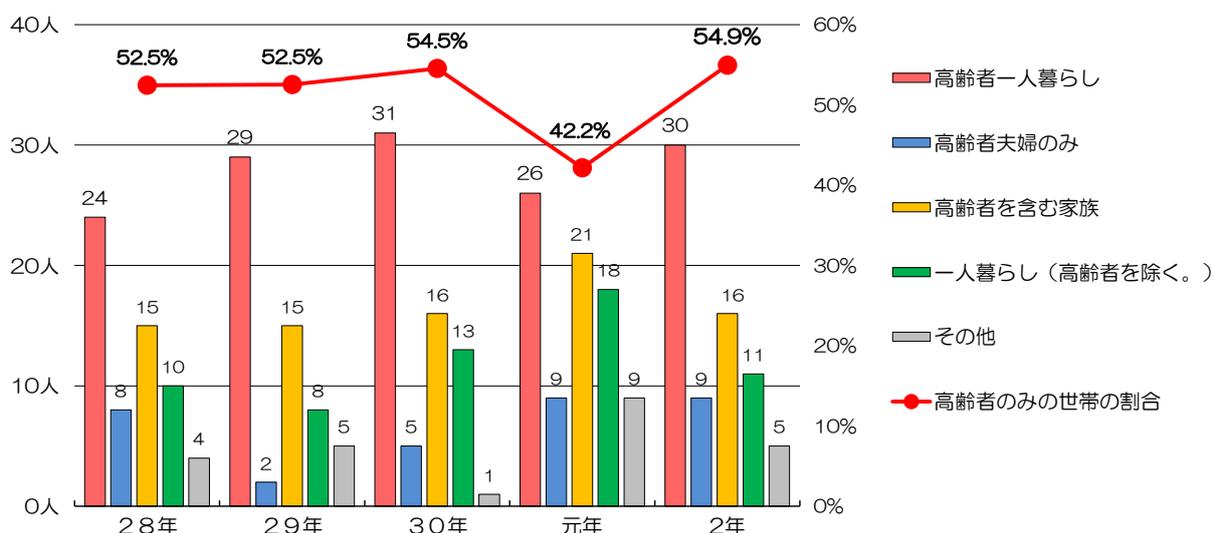


図 1-29 過去5年間における世帯構成別の住宅火災による死者発生状況

## (7) 住宅火災時の行為別

### ア 行為別の住宅火災による死者発生状況

住宅火災時の行為別に死者発生状況を見ると、死者71人のうち、「就寝中」が8人（11.3%）と最も多く、次いで「避難中」が4人（5.6%）、「家事従事中」が3人（4.2%）と続きます（表 1-19）。

死者が発生した「就寝中」は、主に寝たばこと推定されるものです。布団等に落ちたたばこは、しばらく無炎燃焼（炎を出さずに燃え広がること）を続け、気付いた時には室内に一酸化炭素等の有毒ガスが充満して、避難行動がとれずに命を落とす危険があります。

### イ 行為別の住宅火災による負傷者発生状況

住宅火災時の行為別に負傷者発生状況を見ると、負傷者510人のうち、「初期消火中」が114人（22.4%）と最も多く、次いで「家事従事中」が91人（17.8%）、「就寝中」が67人（13.1%）と続きます（表 1-20）。

負傷者が最も多く発生した「初期消火中」は、初期消火の際に火炎のあおりや煙の吸い込み等により負傷したものです。

表 1-19 死者の行為状態

住宅火災時の 行為	死者数 (高齢者数)	死者発生率
就寝中	8(5)	11.3%
避難中	4(2)	5.6%
家事従事中	3(2)	4.2%
初期消火中	2(2)	2.8%
火災通報中	1(1)	1.4%
休憩中	1(1)	1.4%
その他	5(4)	7.0%
不明	47(36)	66.2%
合計	71(53)	100.0%

表 1-20 負傷者の行為状態

住宅火災時の 行為	負傷者数 (高齢者数)	負傷者発生率
初期消火中	114(40)	22.4%
家事従業中	91(36)	17.8%
就寝中	67(17)	13.1%
避難中	60(16)	11.8%
休憩中	30(17)	5.9%
作業中	28(9)	5.5%
飲食中	11(3)	2.2%
救助中	4(1)	0.8%
火災通報中	3(0)	0.6%
防ぎよ中 (消防職・団員)	3(0)	0.6%
火遊び中	3(0)	0.6%
採暖中	1(1)	0.2%
人命救助中 (消防職・団員)	1(0)	0.2%
見物中	1(0)	0.2%
その他	41(12)	8.0%
不明	52(23)	10.2%
合計	510(175)	100.0%

## 4 住宅用火災警報器の概要

### (1) 住宅用火災警報器等の設置状況

住宅火災 1,553 件と住宅火災による死者 71 人(自損を除く。)を住宅用火災警報器等の設置有無別にみると、住宅用火災警報器(以下「住警器」という。)が設置されていた住宅火災は 704 件(45.3%)で、死者は 34 人(47.9%)発生しました。自動火災報知設備等(以下「自火報等」という。)が設置されていた住宅火災は 496 件(31.9%)、死者は 3 人(4.2%)であり、住警器等(住警器及び自火報等をいう。)が未設置だった住宅火災は 353 件(22.7%)、死者は 34 人(47.9%)でした(図 1-30、図 1-31)。

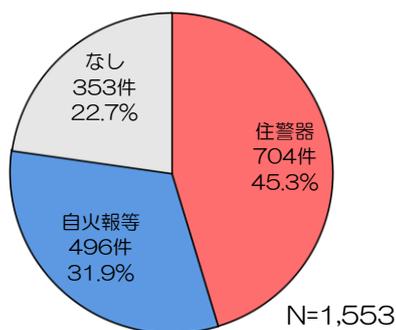


図 1-30 住警器等設置状況別住宅火災件数

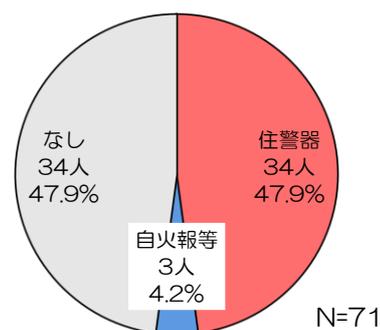


図 1-31 住警器等設置状況別死者数

住警器等設置状況別に死者及び負傷者が発生した住宅火災件数をみると、住警器等を設置している住宅火災件数が 1,200 件あり、このうち死者発生件数(死者及び負傷者の両方が発生した火災を含む。)が 35 件(2.9%)、負傷者のみの発生件数が 282 件(23.5%)でした。

一方、住警器等を設置していない(以下「未設置」という。)住宅において火災件数は 353 件あり、死者発生件数が 30 件(8.5%)、負傷者のみの発生件数が 95 件(26.9%)でした。

以上のことから、住警器等未設置の方が、死傷者が発生する件数の割合が高いことがわかります(図 1-32)。

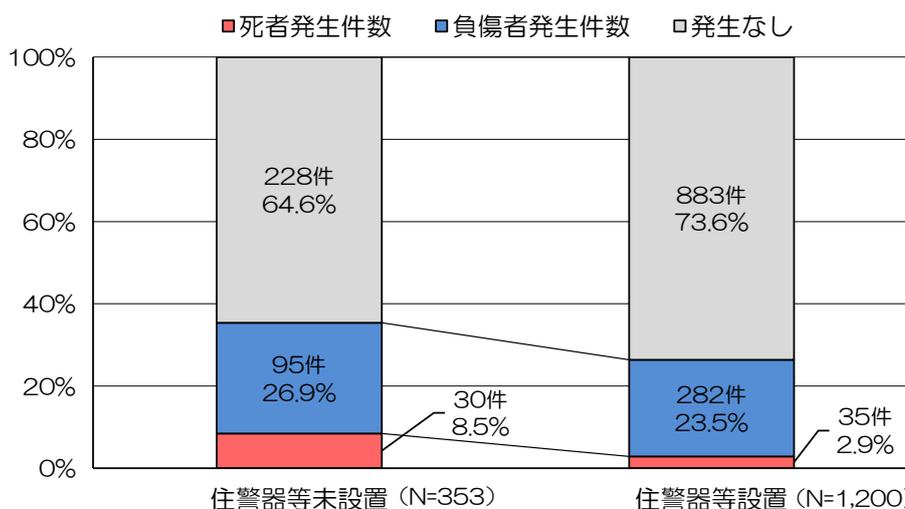


図 1-32 住警器等設置状況別の死者及び負傷者が発生した住宅火災件数

## (2) 住警器等設置有無別の比較

住警器等設置の住宅における火災と住警器等未設置の住宅における火災について、平均焼損床面積、平均損害額及び死者発生火災件数の観点から比較します。

第一に、火災1件あたりの平均焼損床面積について、住警器等未設置住宅では14.1㎡であるのに対し、設置住宅では約1/4の3.6㎡となっています。

第二に、火災1件あたりの平均損害額についても、住警器等未設置住宅では245万円であるのに対し、設置住宅では1/2以下の94万円となっています。

第三に、火災100件あたりの死者発生火災件数について、住警器等未設置住宅で8.5件であるのに対し、設置住宅では約1/3の2.9件となっています。

以上のことから、住警器等の設置は火災の被害軽減に効果的であることが分かります（図1-33～図1-35）。

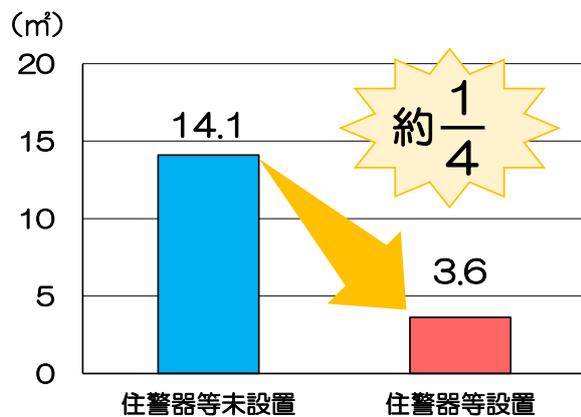


図 1-33 住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均焼損床面積の比較

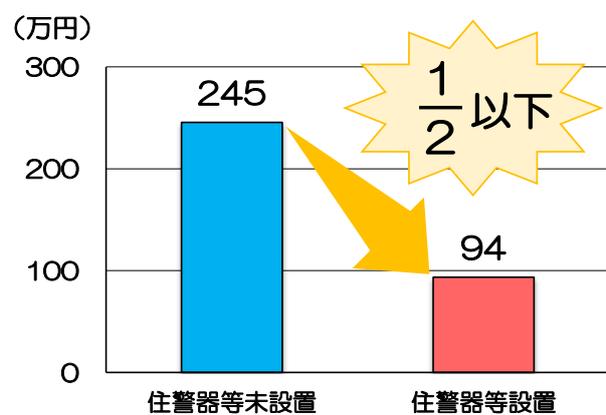


図 1-34 住警器等設置有無別の火災1件あたりの平均損害額の比較

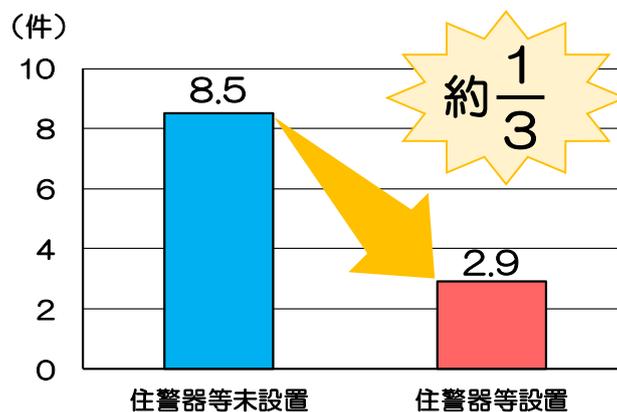


図 1-35 住警器等設置有無別の火災100件あたりの死者発生火災件数の比較

### (3) 住警器の全部設置・一部設置の比較

住警器が設置されていた住宅火災 704 件のうち、火災予防条例で定められたとおりにすべての居室、台所、階段に設置されている住宅（以下「全部設置」という。）と、一部のみに設置されている住宅（以下「一部設置」という。）を比較すると、全部設置が 548 件（77.8%）、一部設置が 156 件（22.2%）でした。

火災焼損程度別にみると、全部設置だった火災 548 件中、全焼及び半焼が計 18 件（3.3%）に対し、一部設置だった火災 156 件中、全焼及び半焼が計 25 件（16.0%）でした（図 1-36、図 1-37）。

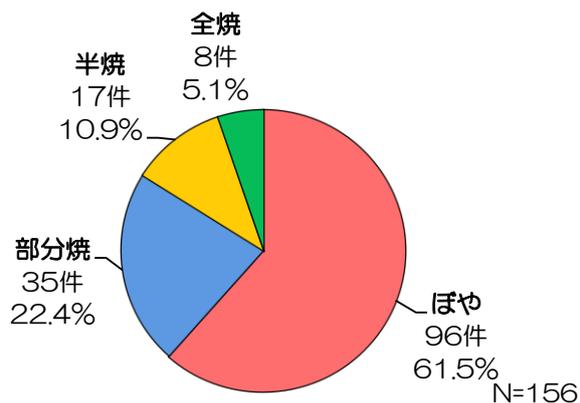
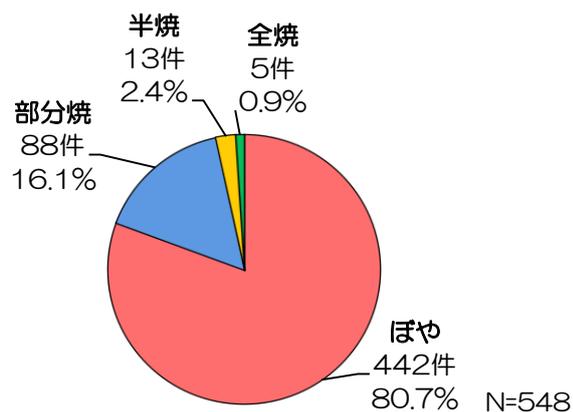


図 1-36 住警器全部設置住宅の火災焼損程度 図 1-37 住警器一部設置住宅の火災焼損程度

住警器の全部設置と一部設置の設置状況別に死者発生火災件数を比較すると、全部設置では 548 件中 13 件で死者が発生しており、一部設置では 156 件中 19 件で死者が発生しました。

住宅火災 100 件あたりの死者発生火災件数で比較すると、一部設置では 12.2 件に対して、全部設置では 2.4 件となり、全部設置の住宅で死者発生火災件数が約 1/5 となっています（図 1-38）。

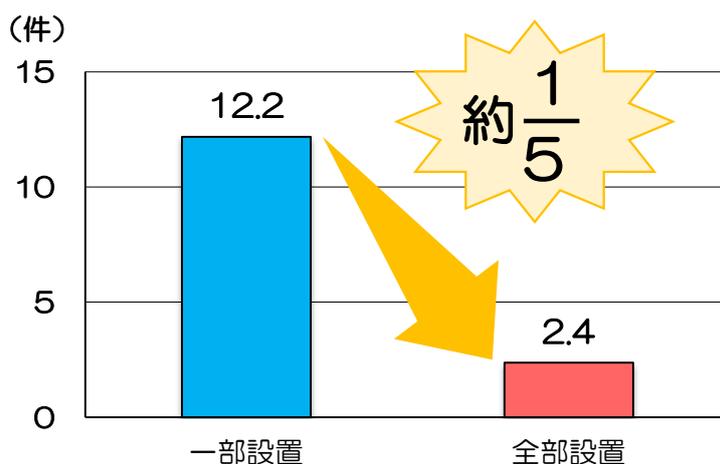


図 1-38 住警器設置状況別火災 100 件あたりの死者発生火災件数

#### (4) 奏功事例の内訳

消防に関する世論調査（令和2年）によると、東京消防庁管内の住警器等設置率は86.0%となっています。

令和2年中、住警器の作動により火災の被害を軽減した奏功事例は224件で、火災焼損程度別にみると、ぼやが160件(71.4%)と約7割を占めています（図1-39）。

また、住警器の奏功事例を出火箇所別にみると、居室等は105件(46.9%)、台所・キッチン等が100件(44.6%)で、これらを合わせると9割以上を占めています（図1-40）。

なお、住警器の鳴動は、隣人や通行人等、居住者以外にも気付かれており、火災の早期発見、被害の軽減につながり、火災に至らなかった事例も多数あります。

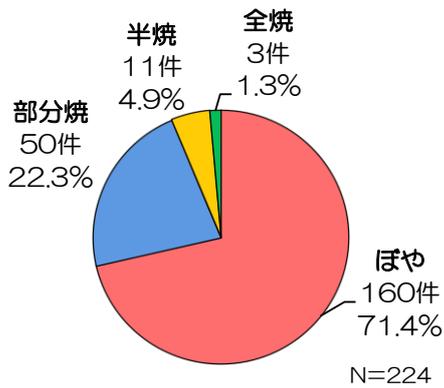


図1-39 火災焼損程度別の奏功事例

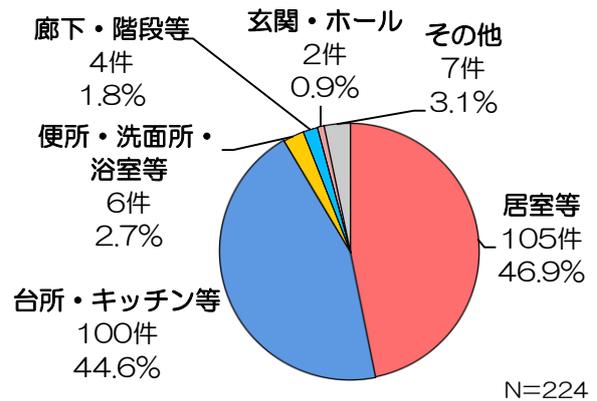


図1-40 出火箇所別の奏功事例

## 5 住宅火災から身の安全を守るためにできること

### 住宅火災の主な出火原因を防ぐポイント

#### たばこ

- ☑ 寝たばこは絶対にしない
- ☑ 飲酒→喫煙→うたた寝に注意する
- ☑ 吸殻を灰皿にためない
- ☑ 吸殻は水で完全に消してから捨てる
- ☑ 火種を落とさないよう安全な場所で喫煙する



#### ストーブ

- ☑ 周囲に燃えやすいものを置かない
- ☑ 外出時や就寝時は必ず消す
- ☑ 給油は必ず消してから行う
- ☑ ストーブの近くで洗濯物を干かさない



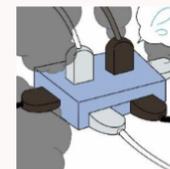
#### こんろ

- ☑ 調理中に離れない
- ☑ 周囲に燃えやすいものを置かない
- ☑ 防災品のエプロンやアームカバーを使用する
- ☑ 火が鍋底からはみ出さないように調節する
- ☑ 安全機能（Siセンサー）付きこんろを使用する

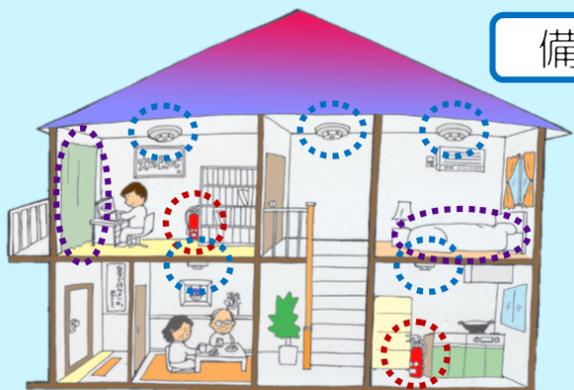


#### コード

- ☑ 使っていないプラグは抜いておく
- ☑ プラグ、コンセントは定期的に掃除する
- ☑ 家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する
- ☑ タップは決められた容量内で使用する
- ☑ 束ねて使用しない



### 備えて安心！住宅用防災機器！



#### 住宅用火災警報器 ～適切な維持管理を～

住宅用火災警報器は、煙や熱を感知し、警報音などで火災の発生を知らせてくれます。住宅火災の早期発見、被害の軽減に役立っています。

- 設置場所は、全ての居室・台所・階段です。
- 定期的に（少なくとも半年に1回）点検をしましょう。（右図参照）
- 正常な場合、正常を知らせる音声や警報音が鳴ります。
- 設置後10年を経過したものは、電子部品の劣化等により火災を感知しなくなることがありますので、本体を交換しましょう。

#### 点検方法



#### 消火器～火を使う場所に備えましょう～

消火器による初期消火は、火災の被害軽減や抑制に効果的です。一般住宅向けの小型で軽量の住宅用消火器や、片手でも使用できるエアゾール式消火具もあります。



#### 防災品 ～性能マークが目印～

防災品を使うことで、火災の発生を防止し、延焼を抑えることができます。



#### 家庭で使用する主な防災品

- アームカバー
- エプロン
- カーテン
- 寝具類
- (例) エプロン

## 第2章 放火火災の実態

### 1 放火火災の概要

令和2年中の火災件数 3,694 件のうち放火（放火の疑いを含む。以下「放火」という。）火災は 641 件発生しました。総火災件数の減少とともに放火火災件数も減少していましたが、総火災件数に占める放火火災件数の割合は前年に比べ増加となりました（図 2-1）。

放火火災 641 件の内訳は、その他火災 350 件（54.6%）、建物火災 270 件（42.1%）、車両火災 21 件（3.3%）でした。

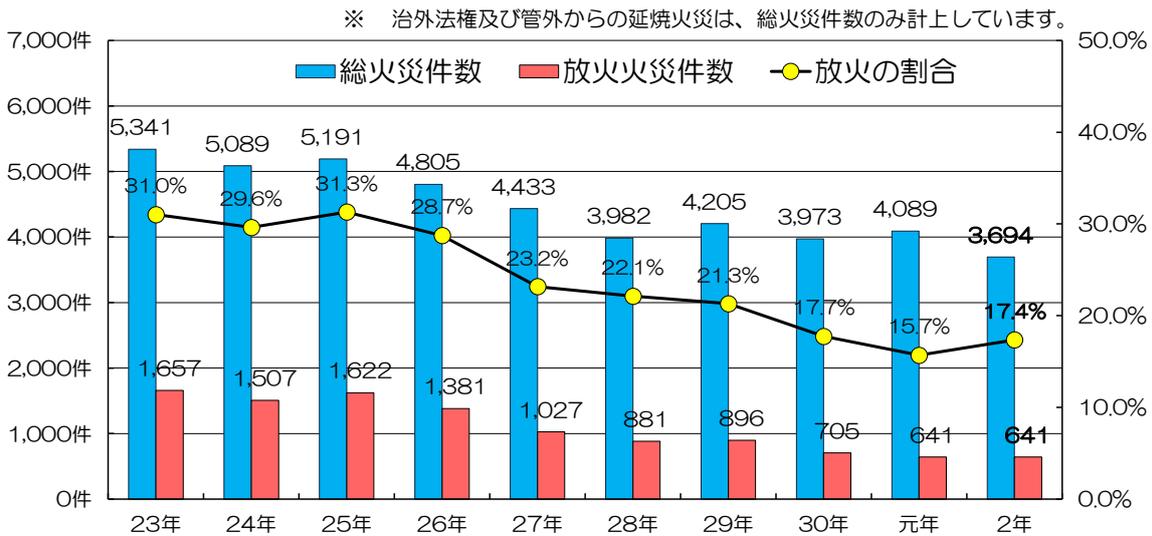


図 2-1 過去 10 年間における放火火災件数の推移

### 2 放火火災の発生状況

#### (1) 月別発生状況

放火火災の発生状況を月別にみると、火災多発期である1月から3月までの間及び12月に、放火火災も多く発生しました。放火火災の割合をみると、1月、2月、3月の割合が高くなっています（図 2-2）。

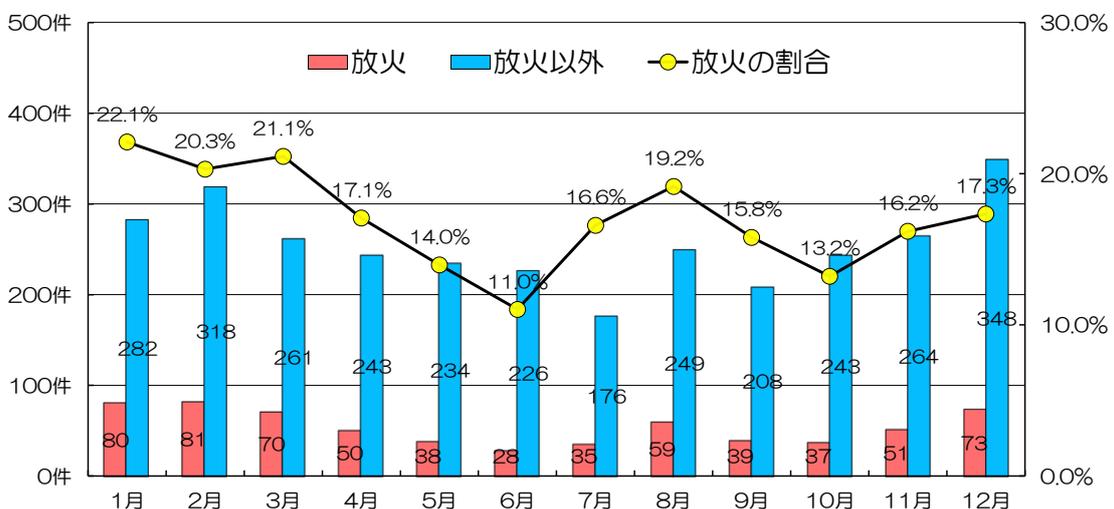


図 2-2 月別の放火火災発生状況

## (2) 曜日別発生状況

曜日別に放火火災の発生状況を見ると、日曜日から火曜日にかけて多く発生しており、放火の割合も高くなっています（図 2-3）。

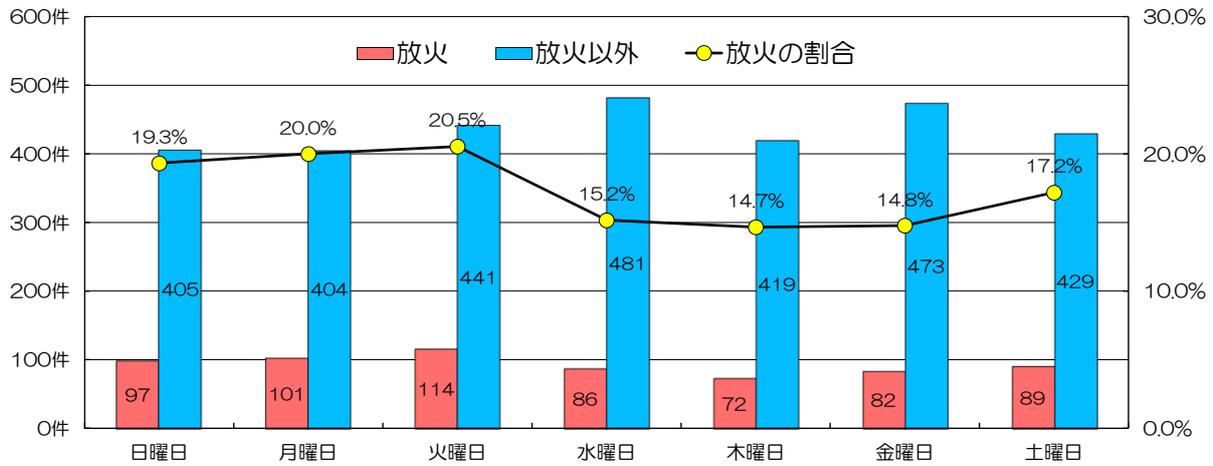


図 2-3 曜日別の放火火災発生状況

## (3) 時間帯別発生状況

出火時間が不明であった 189 件を除いた 452 件の放火火災を時間帯別にみると、0 時から 5 時台まで及び 22 時から 23 時台までの間に放火の割合が高いことが分かります（図 2-4）。

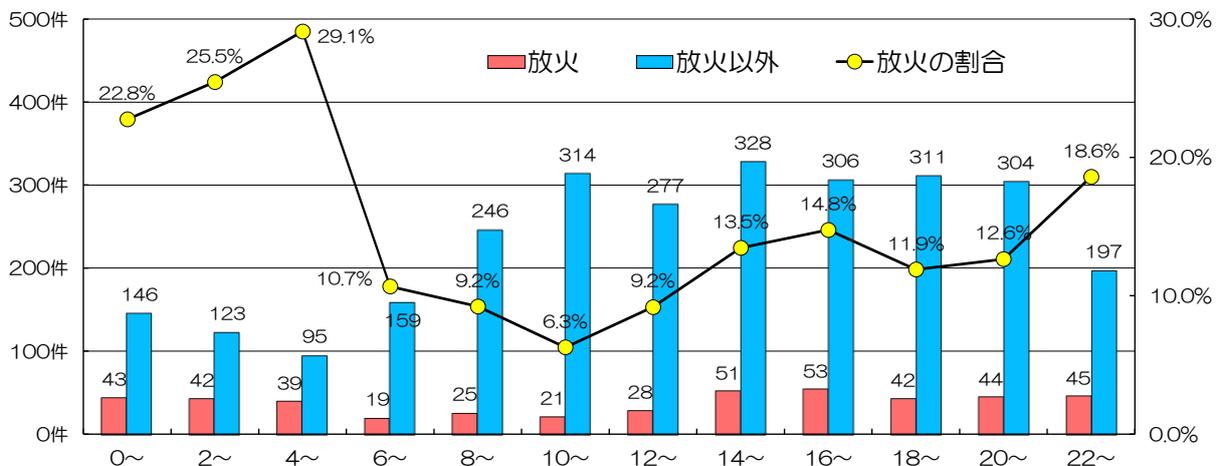


図 2-4 時間帯別の放火火災発生状況

#### (4) 連続放火火災の発生状況

令和2年中、同一日内とその翌日までに、同一地域内で5件以上放火された連続放火火災は6回発生しました(表2-1)。

表2-1 主な連続放火火災の発生状況

発生月	区市町村	出火箇所	焼損物件	連続件数
1月	八王子市	空地	枯草	10
1月	立川市	建物の外周部、敷地内	布、園芸用品等	5
2月	北区	車庫、屋外駐車場、 屋外ごみ捨場、敷地内	車両ボディカバー、 ごみ等	6
2月	葛飾区	廊下	玄関インターホン等	6
8月	練馬区	塀、屋外駐車場、 電柱等、道路、敷地内	自転車カバー等	7
8月	八王子市	外周部(車両等)	車両ワイパー	6

(5) 主な火元建物用途別の発生状況

放火火災 641 件のうち、建物から出火した放火火災 257 件を主な建物用途別にみると、住宅 36 件（14.0%）、共同住宅等 108 件（42.0%）、事業系・その他 113 件（44.0%）となっており、5 割以上が住宅及び共同住宅等から発生しました（表 2-2、図 2-5）。

表 2-2 火元建物用途別発生状況

火元用途		放火	建物から出火した火災	放火件数 / 火災件数
居住系	住宅	36	564	6.4%
	共同住宅等	108	989	10.9%
事業系	事務所	30	272	11.0%
	百貨店・物販等	9	116	7.8%
	停車場	8	27	29.6%
	病院等	4	27	14.8%
	飲食店	3	244	1.2%
	学校	3	25	12.0%
	倉庫	2	20	10.0%
	ホテル・簡易宿泊所	1	21	4.8%
	作業所	-	64	0.0%
	その他	6	55	10.9%
その他	共用部分	35	141	24.8%
	付属建物等	8	20	40.0%
	使用中建物の工事部分	3	3	100.0%
	使用中建物の空き室部分	1	6	16.7%
	空家	0	4	0.0%
合計		257	2,598	9.9%

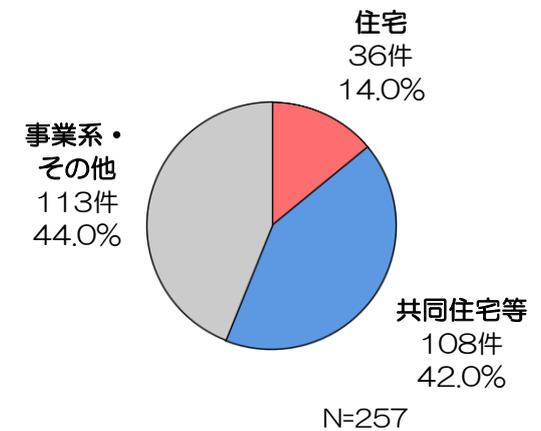


図 2-5 建物から出火した放火火災内訳

## (6) 主な放火場所と着火物

主な放火場所別（出火箇所）にみると、放火火災に占める建物関係（主として建物の箇所）は265件（41.3%）と約4割を占めています。

建物関係265件のうち、最も多い放火場所は共用部分114件（43.0%）であり、次いで住宅部分77件（29.1%）と、これら2つを合わせると約7割を占めています。

放火火災に占める建物関係以外（主として建物以外の箇所）は376件（58.7%）発生し、敷地内138件（36.7%）、公園・墓地88件（23.4%）、道路52件（13.8%）等でした。

放火火災641件を着火物別にみると、「紙・紙製品類」、「ごみくず等」、「合成樹脂製品等」の順で多く発生しました（表2-3）。

表2-3 主な放火場所と着火物

放火場所	着火物	紙・紙製品類	ごみくず等	合成樹脂製品等	枯草	繊維類	くず類	車両関係	その他	不明	合計
建物関係	共用部分	42	22	24	0	9	5	0	6	6	114
	住宅部分	17	3	6	0	29	3	0	6	13	77
	建物の外周部	9	4	3	0	2	1	2	3	1	25
	物置・倉庫	3	0	4	0	1	1	0	3	0	12
	バルコニー・屋上	1	0	1	0	2	0	0	1	1	6
	車庫・駐車場	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4
	その他	8	2	7	0	4	1	0	3	2	27
	小計	81	31	45	0	47	11	2	22	26	265
建物関係以外	敷地内	17	22	22	21	0	21	3	8	5	138
	公園・墓地	12	15	5	39	19	9	0	5	0	88
	道路	13	16	4	4	3	5	0	2	1	52
	河川敷	2	2	0	21	7	0	0	7	0	33
	車両	1	0	2	0	1	0	4	6	2	15
	屋外ごみ捨場	0	10	0	0	0	0	0	0	1	11
	その他	9	4	14	2	2	5	2	1	0	39
	小計	54	69	47	87	32	40	9	29	9	376
合計	135	100	92	87	79	51	11	51	35	641	

# 事例編

## 1 主な住宅火災の事例

### (1) たばこ

#### 【事例1】たばこの火種が落下したことにより死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、共同住宅で二人暮らしの居住者（男性・70代）が、居間でたばこを吸った際、たばこの火種がこたつの掛布団に落下したことに気付かず、無炎燃焼を継続後、火災となりました。この火災により、居住者1名が亡くなり、もう1名が一酸化炭素中毒で病院に搬送されました。</p> <p>2階に住む居住者が、何らかの音に気づき廊下に出ると、煙を確認したため、119番通報しました。</p>			

#### 【事例2】たばこの不始末により死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、共同住宅で二人暮らしの居住者（男性・80代）が、完全に火の消えていないたばこの吸い殻を居室内の不適当な所に捨てたことにより、時間の経過と共に可燃物に着火し、火災となりました。この火災により、居住者1名が亡くなりました。もう1名は外出中でした。</p> <p>ホームヘルパーが訪問し呼び出しに回答がないことから、関係者の合鍵により、玄関ドアを開放したところ煙が充満し倒れている居住者を発見したため119番通報しました。</p>			

### (2) こんろ

#### 【事例1】着衣着火により死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、共同住宅で一人暮らしの居住者（女性・80代）が、お湯を沸かそうとした際に、こんろの火が着衣に接触したため着火し、火災となりました。この居住者は、やけどにより亡くなりました。</p> <p>出火建物の居住者が、外出先から帰ってきたところ、階段部分で煙の臭いと住宅用火災警報器の鳴動音を確認、さらに排気口から煙が出ているのを発見したため119番通報しました。</p>			

#### 【事例2】使用の誤りによる住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	なし
<p>この火災は、何らかのはずみでガスこんろの点火スイッチが押されて点火された状態になり、こんろ部に置かれた合成樹脂製の猫避けに着火し、火災となりました。</p> <p>居住者（男性・20代）は住宅1階の寝室で就寝中に、住宅用火災警報器の鳴動により目を覚まし、2階から煙が発生していることを確認しました。屋外へ避難し、散水栓のホースで初期消火を試みますが、失敗し、119番通報しました。</p>			

### (3) ストーブ

#### 【事例1】電気ストーブに可燃物が落下したことにより死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	半焼	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、脱衣所内の洗濯物が電気ストーブの上に落下したため着火し、火災となりました。この住宅の居住者（女性・60代）は、全身やけどにより亡くなりました。</p> <p>火元建物の隣人は、就寝中に屋外からパチパチとした音を聞き、自宅の窓から外を見ると、向かいの窓から煙が出ているのを発見し、119番通報しました。</p>			

#### 【事例2】電気ストーブに可燃物が接触したことにより負傷者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり
<p>この火災は、共同住宅の居住者（女性・30代）が、仕事から帰宅後、電気ストーブを付けたまま就寝し、電気ストーブの輻射熱により座椅子が加熱され、火災となりました。この居住者は、座椅子の燃焼部分を左手で払ったところ、左手を負傷しました。</p> <p>居住者は、マグカップに水道水を入れ、消火した後、119番通報しました。</p>			

### (4) その他の出火原因

#### 【事例1】コードの短絡により死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	半焼	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、テーブルトップの配線被覆が経年劣化により絶縁性能が低下し、短絡して火災となりました。この住宅の居住者（男性・80代）は、全身やけどにより亡くなりました。</p> <p>隣人は、外出しようとしていたところ、黒煙を確認し、自宅の固定電話から119番通報しました。</p>			

#### 【事例2】電気冷蔵庫の電源コードの判断線により死者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	部分焼	死傷者の発生状況	死者あり
<p>この火災は、ダイニングキッチン内の冷蔵庫の電源コードが判断線により発熱して、配線被覆や周囲の紙くず等に着火し、火災となりました。この住宅の居住者（男性・50代）は、全身やけどにより亡くなりました。</p> <p>隣人は、焦げ臭さを感じたため、自宅玄関の小窓から外を確認しました。住宅から煙が出ているのを発見し、固定電話から119番通報しました。</p>			

#### 【事例3】線香の無炎燃焼により負傷者が発生した住宅火災の事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり
<p>この火災は、住宅の居住者A（女性・90代）が、仏壇に線香を供えた際に、線香の火種が座布団上に落下し、無炎燃焼を継続したことにより、火災となりました。</p> <p>居住者B（男性・70代）は、煙の臭気を感じたため、住宅内を確認すると、煙が発生していました。煙の出ている部屋に入ると、住宅用火災警報器が鳴動しており、座布団が燃えていることを確認しました。</p> <p>居住者Bは、119番通報後、散水ホースで水道水をかけて消火しました。</p>			

## 2 住宅用防災機器等の主な奏功事例

### (1) 住宅用火災警報器

【事例1】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報につながり火災を未然に防いだ事例					
火災の程度	非火災		死傷者の発生状況	なし	
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	
<p>この事例は、住宅の居住者（女性・80代）が、鍋を火にかけてそのまま入浴したため、鍋が空焚き状態となり、煙が発生し、住宅用火災警報器が鳴動しました。</p> <p>居住者は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、風呂場を出ると、台所が煙で充満していました。火を止め、換気を行った後、火災となったと思い、119番通報しました。</p>					

【事例2】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、初期消火につながった事例					
火災の程度	ぼや		死傷者の発生状況	なし	
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
<p>この事例は、共同住宅の居住者（男性・20代）が、たばこ1本を吸い、台所にある灰皿に捨てて就寝したところ、台所の灰皿から煙が発生し、居室内にある住宅用火災警報器が鳴動しました。</p> <p>居住者は鳴動音に気づき、目を覚ましました。台所に行き、灰皿からの煙を確認し、灰皿を流し台に置き、水道水をかけて消火しました。その後、居住者自身の携帯電話で119番通報しました。</p>					

【事例3】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、初期消火につながった事例					
火災の程度	ぼや		死傷者の発生状況	なし	
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
<p>この事例は、住宅1階の居室にあるテーブルタップから煙が上がり、住宅用火災警報器が鳴動しました。</p> <p>住宅の居住者（女性・80代）は、就寝中に住宅用火災警報器の鳴動音で目を覚まし、テーブルタップから煙が上がっていることを発見しました。初期消火をし、窓を開けて換気をした後、自宅の固定電話から119番通報しました。</p>					

【事例4】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、初期消火につながった事例					
火災の程度	ぼや		死傷者の発生状況	なし	
発見者	居住者	通報者	居住者	初期消火	あり
<p>この事例は、住宅3階廊下のニッチ部分に収納していたタオルと埋め込み式ダウンライトが接触していたため、煙と炎が発生し、3階階段部分の住宅用火災警報器が鳴動しました。</p> <p>居住者（女性・30代）は、2階台所で朝食の準備をしていたところ、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、3階へ向かいました。3階廊下のニッチ部分に炎を確認し、タオルを収納している箱を3階ベランダに運び、水道水をかけて消火しました。その後、居住者は119番通報しました。</p>					

## (2) 消火器

### 【事例1】消火器による初期消火により火災の延焼を防いだ事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり		
発見者	工事現場作業員	通報者	火元建物管理人	初期消火	あり
<p>この火災は、共同住宅の居住者（女性・80代）が、ガステーブルの上に電子炊飯器を置き、点火したことにより火災となりました。</p> <p>火元建物近くの工事現場の作業員が、焦げ臭さと白煙を確認したため、作業員2人で火元建物へ向かいました。火元建物の屋内階段で白煙が充満していたため、作業員は共用部に設置してある消火器を持ち、火元居室で初期消火を実施しました。</p>					

### 【事例2】消火器による初期消火により火災の延焼を防いだ事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり		
発見者	居住者	通報者	隣人	初期消火	あり
<p>この火災は、共同住宅の居住者（女性・40代）が、セラミックファンヒーターを消し忘れ外出したため、セラミックファンヒーターの熱によりその付近にあった衣類に着火し、火災となりました。</p> <p>居住者は、外出先から帰宅し、玄関ドアを開けたところ、白煙と住宅用火災警報器の鳴動音を確認しました。共用廊下にあった消火器を持ち、自宅内に入り、初期消火を実施しました。</p>					

## (3) エアゾール式簡易消火具

### 【事例1】エアゾール式簡易消火具による初期消火により火災の延焼を防いだ事例

火災の程度	ぼや	死傷者の発生状況	負傷者あり		
発見者	居住者	通報者	隣人	初期消火	あり
<p>この火災は、共同住宅の居住者（女性・60代）が、ガステーブルで鍋を火にかけている最中に、缶切りでスプレー缶のガス抜きをしたところ、残存ガスに引火し、火災となり、調理器具等が焼損しました。</p> <p>居住者は、ガステーブルの火を止め、エアゾール式簡易消火具で初期消火を実施しました。</p>					

## 資料編

### 1 区市町村別住宅火災状況

区名	世帯数	建物から出火した火災件数	住宅火災件数	住宅火災の割合
千代田区	37,152	60	4	6.7%
中央区	94,807	89	23	25.8%
港区	147,693	136	48	35.3%
新宿区	221,720	143	53	37.1%
文京区	123,849	43	28	65.1%
台東区	121,489	46	23	50.0%
墨田区	153,656	56	39	69.6%
江東区	270,818	117	52	44.4%
品川区	225,190	91	61	67.0%
目黒区	158,223	39	26	66.7%
大田区	396,961	121	73	60.3%
世田谷区	487,174	120	90	75.0%
渋谷区	139,725	112	48	42.9%
中野区	207,909	75	49	65.3%
杉並区	325,606	88	66	75.0%
豊島区	180,595	98	42	42.9%
北区	198,711	57	36	63.2%
荒川区	117,228	45	27	60.0%
板橋区	314,492	95	69	72.6%
練馬区	377,837	99	86	86.9%
足立区	352,835	119	88	73.9%
葛飾区	236,600	84	64	76.2%
江戸川区	345,833	89	68	76.4%
特別区合計	5,236,103	2,022	1,163	57.5%

市町村名	世帯数	建物から出火した火災件数	住宅火災件数	住宅火災の割合
八王子市	270,386	79	47	59.5%
立川市	92,288	31	16	51.6%
武蔵野市	77,313	21	14	66.7%
三鷹市	94,834	40	30	75.0%
青梅市	63,432	18	10	55.6%
府中市	126,160	27	16	59.3%
昭島市	54,324	16	12	75.0%
調布市	120,286	40	28	70.0%
町田市	197,711	54	40	74.1%
小金井市	61,070	19	11	57.9%
小平市	92,815	25	21	84.0%
日野市	89,585	20	15	75.0%
東村山市	73,418	24	22	91.7%
国分寺市	61,163	15	12	80.0%
国立市	38,241	7	4	57.1%
西東京市	99,258	29	22	75.9%
福生市	30,415	12	8	66.7%
狛江市	42,682	6	4	66.7%
東大和市	39,117	7	5	71.4%
清瀬市	35,745	12	11	91.7%
東久留米市	54,784	11	5	45.5%
武蔵村山市	31,938	12	6	50.0%
多摩市	72,469	22	15	68.2%
羽村市	25,810	7	6	85.7%
あきる野市	35,859	8	3	37.5%
瑞穂町	14,906	7	3	42.9%
日の出町	7,437	4	2	50.0%
檜原村	1,160	1	1	100.0%
奥多摩町	2,643	2	1	50.0%
多摩地区合計	2,007,249	576	390	67.7%
合計	7,243,352	2,598	1,553	59.8%

注 世帯数は令和2年1月1日現在のもの

「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」

(東京都の統計ホームページ)による

## 2 区市町村別住宅火災による死者状況

区名	死者発生数 件	住宅火災数 件	死者発生率※ (令和2年)	死者発生率※ (過去5年)
千代田区	0	4	0.0%	0.0%
中央区	0	23	0.0%	1.9%
港区	1	48	2.1%	1.0%
新宿区	2	53	3.8%	2.7%
文京区	0	28	0.0%	1.5%
台東区	1	23	4.3%	8.4%
墨田区	2	39	5.1%	5.9%
江東区	2	52	3.8%	5.2%
品川区	3	61	4.9%	5.6%
目黒区	0	26	0.0%	3.4%
大田区	5	73	6.8%	4.3%
世田谷区	2	90	2.2%	3.6%
渋谷区	2	48	4.2%	1.8%
中野区	0	49	0.0%	2.4%
杉並区	5	66	7.6%	4.9%
豊島区	1	42	2.4%	2.0%
北区	2	36	5.6%	5.8%
荒川区	1	27	3.7%	6.1%
板橋区	1	69	1.4%	2.7%
練馬区	4	86	4.7%	4.5%
足立区	5	88	5.7%	6.6%
葛飾区	3	64	4.7%	5.4%
江戸川区	1	68	1.5%	2.6%
特別区合計	43	1,163	3.7%	4.0%

※ 死者発生率 =  $\frac{\text{死者が発生した住宅火災件数}}{\text{住宅火災件数}}$

市町村名	死者発生数 件	住宅火災数 件	死者発生率※ (令和2年)	死者発生率※ (過去5年)
八王子市	4	47	8.5%	3.1%
立川市	1	16	6.3%	3.6%
武蔵野市	1	14	7.1%	11.4%
三鷹市	1	30	3.3%	4.3%
青梅市	0	10	0.0%	2.0%
府中市	3	16	18.8%	2.7%
昭島市	1	12	8.3%	10.3%
調布市	1	28	3.6%	5.3%
町田市	1	40	2.5%	2.0%
小金井市	2	11	18.2%	3.2%
小平市	2	21	9.5%	3.4%
日野市	0	15	0.0%	3.3%
東村山市	1	22	4.5%	6.1%
国分寺市	1	12	8.3%	1.9%
国立市	0	4	0.0%	0.0%
西東京市	0	22	0.0%	0.0%
福生市	0	8	0.0%	0.0%
狛江市	0	4	0.0%	0.0%
東大和市	0	5	0.0%	2.8%
清瀬市	1	11	9.1%	9.8%
東久留米市	0	5	0.0%	2.0%
武蔵村山市	0	6	0.0%	18.2%
多摩市	0	15	0.0%	0.0%
羽村市	0	6	0.0%	0.0%
あきる野市	0	3	0.0%	0.0%
瑞穂町	0	3	0.0%	0.0%
日の出町	1	2	50.0%	22.2%
檜原村	0	1	0.0%	0.0%
奥多摩町	1	1	100.0%	50.0%
多摩地区合計	22	390	5.6%	3.8%
合計	65	1,553	4.2%	4.0%

### 3 区市町村別放火火災状況

区名	放火火災数 件	総火災数 件	放火火災の割合
千代田区	7	83	8.4%
中央区	9	111	8.1%
港区	20	182	11.0%
新宿区	17	180	9.4%
文京区	10	56	17.9%
台東区	6	68	8.8%
墨田区	13	77	16.9%
江東区	16	148	10.8%
品川区	8	123	6.5%
目黒区	1	46	2.2%
大田区	29	168	17.3%
世田谷区	23	169	13.6%
渋谷区	9	147	6.1%
中野区	8	92	8.7%
杉並区	16	116	13.8%
豊島区	24	131	18.3%
北区	30	91	33.0%
荒川区	7	60	11.7%
板橋区	25	123	20.3%
練馬区	17	133	12.8%
足立区	47	183	25.7%
葛飾区	43	117	36.8%
江戸川区	40	133	30.1%
特別区合計	425	2737	15.5%

市町村名	放火火災数 件	総火災数 件	放火火災の割合
八王子市	42	147	28.6%
立川市	16	57	28.1%
武蔵野市	1	32	3.1%
三鷹市	2	53	3.8%
青梅市	8	36	22.2%
府中市	8	39	20.5%
昭島市	1	23	4.3%
調布市	8	53	15.1%
町田市	28	103	27.2%
小金井市	7	24	29.2%
小平市	9	40	22.5%
日野市	7	31	22.6%
東村山市	3	35	8.6%
国分寺市	6	20	30.0%
国立市	1	13	7.7%
西東京市	11	48	22.9%
福生市	2	19	10.5%
狛江市	1	7	14.3%
東大和市	6	16	37.5%
清瀬市	6	17	35.3%
東久留米市	8	23	34.8%
武蔵村山市	2	14	14.3%
多摩市	10	38	26.3%
羽村市	4	14	28.6%
あきる野市	14	30	46.7%
瑞穂町	0	10	0.0%
日の出町	4	6	66.7%
檜原村	0	4	0.0%
奥多摩町	1	5	20.0%
多摩地区合計	216	957	22.6%
合計	641	3694	17.4%

※ 治外法権及び管外からの延焼火災は、総火災件数のみ計上します。